

BMH11C-J  
取扱説明書

***b-mobile***



ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお取り扱いください。  
また、お読みになった後も、大切に保管してください。



日本通信株式会社



(製造元)本多エレクトロン株式会社

# はじめに

このたびは BMH11C-J (以降本カードと呼びます) をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、BMH11C-J の取扱説明書で本カードをお使いのパソコンや PDA で使用できるようにするまでのセットアップ方法を、使用環境別に説明しています。

本カードが使用できる使用環境、OS は次のとおりです。

## BMH11C-J

PC カードスロット Type (付属の PC カードアダプタ使用) もしくは CF カードスロット Type を実装したパソコン、各種 PDA。

Windows 日本語版 98 / 98SE / Me / 2000 / XP / CE3.0 以上

Mac OS 8.5 / 8.5.1 / 8.6 / 9.0 / 9.0.4 / 9.1 / 9.2.1 / 9.2.2 / 10.1.5 / 10.2 / 10.2.1 / 10.2.2 / 10.2.3 / 10.2.4 / 10.2.5

また、初めてデータ通信やインターネットを利用する方のために、専門用語の解説を付録に簡単に説明してありますので、ご一読ください。

ご使用前に、必ず安全上のご注意をよくお読みの上、安全に正しくお取り扱いください。また、本書は、お読みになった後も、必要なときにすぐに見られるよう、大切に保管しておいてください。

## おことわり

無断転載を禁じます。

本書の内容は、断りなく変更することがあります。

本書および本書に記載された製品の使用によって発生した損害およびその回復に要する費用に対し、当社は一切の責任を負いません。

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理するようお願いいたします。

詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

MNP は米国 Microcom 社の商標です。

Hayes (ヘイズ) は米国 Hayes Micro Computer Products, Inc. の登録商標です。

Windows 98, Windows 98SE, Windows Me, Windows 2000, Windows XP, Windows CE は米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Macintosh は米国アップルコンピュータ社の登録商標です。

PIAFS は PHS Internet Access Forum Standard の略称です。

その他、商品名および製品名などは一般に各社の商標または登録商標です。

# 安全上のご注意

本書では、本カードを安全に正しくお使いいただくため、また機器の損傷を防ぐため、次の表示を使って注意事項を喚起しています。

これらの表示の意味は次のとおりです。内容をよく理解して、これらの表示が記載されている事項については、必ずお守りください。

## 危害や損害の程度の区分表示

 **警告：** この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意：** この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## お守りいただく内容の区分表示

 この絵表示は気をつけて頂きたい「注意喚起」の内容です。

 この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。

 **警告**

 車両を運転中に本カードを使用しないでください。交通事故の原因となります。

 航空機の機内や病院など、使用を禁止されている場所では本カードを使用しないでください。電波障害により、電子機器や医療機器に影響を及ぼす恐れがあり、事故の原因となります。

 本カードを分解、改造しないでください。火災、感電および故障の原因となります。

 小さいお子様の手の届くところに放置、または手の届くところでの使用は避けてください。感電や火災といった思いがけない事故の原因となります。

 本カードに付属しているCD-ROMはパソコンのCD-ROMドライブ以外では絶対に使用しないでください。大音量の発生などにより耳に障害を負ったり、スピーカを破損する恐れがあります。

 **注意**

 水や薬品のかかる可能性のある場所で本カードを使用したり、放置したりしないでください。発熱や感電の原因となります。

# 使用上のご注意

## お取り扱いについて

本カードを次のような場所で使用したり、放置したりしないでください。

- ・極度に高温や低温の場所
- ・湿気が多い場所や水がかかる場所
- ・直射日光のあたる場所
- ・ほこりの多い場所
- ・薬品や有害なガスに触れる可能性のある場所

万一、本カードから異常な発熱や発煙、異臭が生じた場合は、ただちに本カードをご使用のパソコンまたはPDAから抜き取ってください。お客様による修理は危険ですので、絶対におやめください。

また、本製品の利用にあたり、下記の事項にご注意ください。

- ・本カードを落としたり、衝撃を与たりしないでください。
- ・本カードを曲げたり、無理な力を加えたり、重いものをのせたりしないでください。また、アンテナに無理な力を加えないでください。
- ・本カードを鞆等に直接入れないでください。
- ・本カードをパソコン、PDA等のスロットに挿入したまま長期間保存しないでください。本カードをお使いにならないときは、アンテナをたたみ、パソコンから取り外してください。
- ・本カードをパソコン、PDA等のスロットに挿入したままで持ち運ばないでください。
- ・本カードを取り出す際、アンテナを持たずにカード本体を持って抜いてください。また、パソコンやPDA本体にイジェクトレバーがある場合には、レバーを使用して、取りはずしてください。本カードを取り外すときは、アンテナを持たずにイジェクトレバーを使用し、カード部分を持って抜いてください。
- ・本カードがパソコンやPDAのスロットにスムーズに挿入できなかつたり、挿入時に違和感を感じる場合は、無理に挿入せずカードおよびスロットの点検を行ってください。
- ・火中への投入はおやめください。
- ・正しい方向に挿入してください。

## 付属ソフトウェアについて

製品に付属のソフトウェアの使用にあたり、下記の事項にご注意ください。

お客様には、本ソフトウェアの使用権のみが譲渡されます。著作権が移転するものではありませんので、第三者への譲渡、販売などはできません。

本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的にのみ許可されます。他人への譲渡、販売等の目的でコピーすることはできません。

本ソフトウェアのご使用にあたり、生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する損害の請求については、弊社および販売店などはその一切の責任を負いません。

## 通信状態について

本カードは、通信を行っていない状態で本体の表示ランプ（アンテナマーク側）が赤点灯の時は圏外のため使用できません。同様に表示ランプ（アンテナマーク側）が緑点滅している場合、通信が不安定となる恐れがあります。表示ランプ（アンテナマーク側）が安定して緑点灯している状態で通信を行って下さい。

ただし表示ランプ（アンテナマーク側）が安定して緑点灯している場合でも、回線が混んでいて通信ができない場合があります。この場合、しばらくしてからもう一度接続し直してください。

表示ランプ（アンテナマーク側）が赤点灯のまま圏外のため使用できない状態が続いた場合、場所を移動して緑点灯になるように調整してください。

## 自動再発信の制限について

本カードでは、接続できなかった場合の再発信動作（リダイヤル）は3分中2回までとなっています。この場合には、しばらくしてから再発信（リダイヤル）してください。

## その他

パソコンやPDAの電源がONの状態のまま本カードを取り外すと、動作が不安定になる場合があります。その場合は電源をOFFにするか、又はカードの停止を選んでから取り外すようにしてください。

パソコンやPDAの電池が不足した状態では、動作が不安定になります。電池の残量をよく確認の上、お使いください。

テレビやラジオのそばで本カードを使用すると、画面が乱れたり、雑音が入ったりする場合があります。この場合、テレビやラジオから離してお使いください。

誤って操作をしたときは、パソコンやPDAの電源を一度切り、電源を入れ直してください。

ノートパソコンに本カードを挿入した状態でスタンバイまたはハイバネーション動作を行うとお使いのノートパソコンの機種によっては、まれに正常に動作しない場合があります。そのような場合には必ず本カードを取り外してから、当該動作を行ってください。

Windows Me 搭載のパソコンでは本カードを挿入した状態で電源の投入や再起動を行うとお使いのパソコンの機種によっては、まれに正常に動作しない場合があります。そのような機種をお使いの場合は、パソコンが完全に起動してからカードを挿すようにしてください。

# 目次

はじめに	1
おことわり	1
安全上のご注意	2
使用上のご注意	3
<b>1 ご使用になる前に</b>	
通信方式について	7
通信方式の設定について	8
発着信の制限について	9
<b>2 カードセットアップ</b>	
梱包品の確認	11
表示ランプについて	13
アンテナの操作方法	14
操作の流れ	15
カードをセットする	16
Setup Windows 98 / 98SE / Me	17
Setup Windows 2000	26
Setup Windows XP	36
Setup Windows CE	46
Setup Macintosh MacOS X	50
Setup Macintosh MacOS	53
Setup PDA	56
<b>3 困ったときに</b>	
確認してください	58
本カードが動作しない場合の確認事項	60
外付け CD-ROM を使用して手動セットアップを行う場合	63
カスタマサポート	64
<b>4 付録</b>	
コマンドリファレンス	66
AT コマンド	69
S レジスタ	70
拡張 AT コマンド	70
リザルトコード	71
用語集	72
<b>5 仕様</b>	
通信カード仕様	76

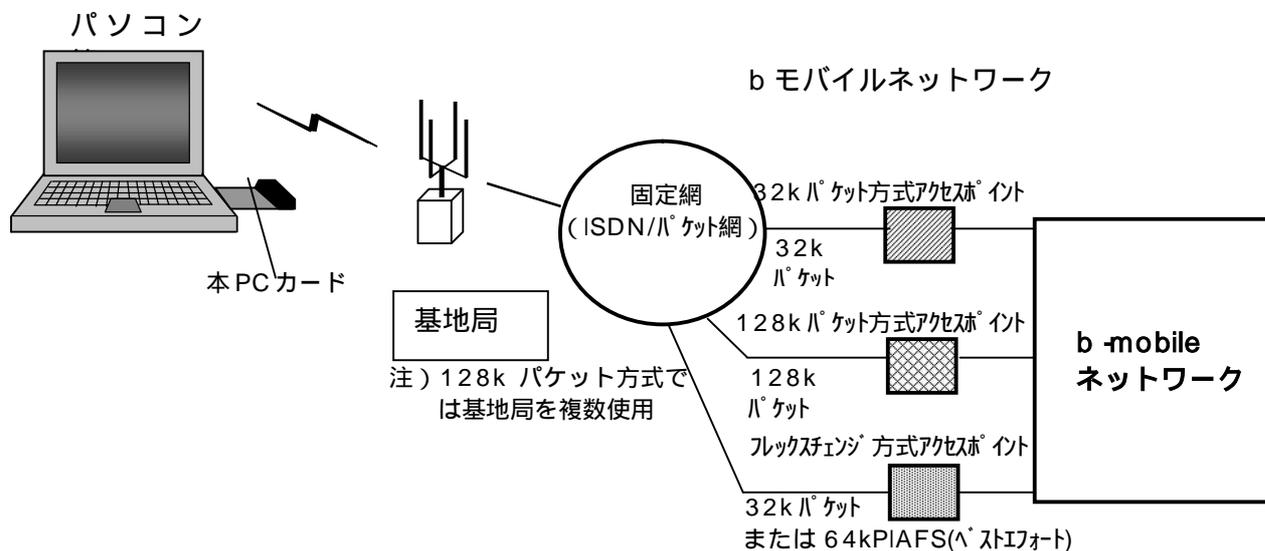
# 1 ご使用になる前に

通信方式について  
通信方式の設定について  
発着信の制限について



# 通信方式について

本カードの通信方式を以下に示します。  
データ通信を始めるにあたり、通信方式をご理解の上、始めていただくことをおすすめします。



本カードは以下の通信方式が選択できます。利用できる通信方式はお客様がご利用いただけるサービスによって異なります。

## フレックスチェンジ方式

データ流量の状態により 32k パケット方式と 64kPIAFS (ベストエフォート) 方式を高速で切り替えます。フレックスチェンジに対応したアクセスポイントを経由することで最高 64 kbps でのデータ通信ができます。

## 32k パケット方式

情報をパケット (小包) に分割してパケット単位で情報をやりとりする方式です。下り最大 32 kbps、上り最大 17 kbps でインターネットへ接続が可能です。

## 128k パケット方式

情報をパケット (小包) に分割してパケット単位で情報をやりとりする方式です。4つの基地局を利用する事で下り最大 128 kbps、上り最大 68 kbps でインターネットへ接続が可能です。

### ご注意

無線モデム・FAX、無線インターネット (IEEE 803.11 a/b/g など) には対応していません。  
家庭モード、トランシーバモードには対応していません。

## 通信方式の設定について

本カードの通信方式を設定するには、「アクセスポイントの電話番号に続けて##mnを入力する」方法と「本カードの追加設定に AT コマンド (@Omn) を入力する」方法の 2 通りがあります。ご都合の良い方法を選んでご利用ください。

### アクセスポイントの電話番号に続けて「##mn」を入力する

アクセス方式	電話番号に続けて
フレックスチェンジ方式	##7
32k パケット方式	##61
128k パケット方式	##64

- ・128k パケット方式の場合の設定例

電話番号が 0123456789 の時  
電話番号の入力欄に 0123456789##64 と入力します。

### 本カードの追加設定に AT コマンド (@Omn) を入力する

本カードの通信設定欄の追加設定に「@Omn」を入力します（O はアルファベットのオーです）。たとえば「@O64」と入力した場合は、電話番号の末尾に（##64）を入力しなくても、128k パケット方式で通信を行います。

mn=7 : フレックスチェンジ方式  
mn=61 : 32k パケット方式  
mn=64 : 128k パケット方式

注意：

通信方式の設定を正しく行わないと通信が出来ません。  
2 通りの方法で設定を行った場合、「@Omn」の設定よりも「##mn」の設定の方が優先されます。

### 通信速度の設定について（Windows 系のみ）

本カードの通信速度設定についてはスタートアップキットにより自動で設定されますが途中でセットアップを省略または手動セットアップの場合、初期設定のままとなっている場合があります。本設定についてはダイヤルアップ接続のプロパティより設定内容を確認できます。本設定については最高速度を 115200bps と設定してください。

## 発着信の制限について

フレックスチェンジ方式、32k パケット方式、128k パケット方式の場合、発信（電話をかける）のみ可能で、着信（電話をうける）はサポートしていません。

### 注意

発信とはデータ通信における発信とは、電話をかけることをいいます。

着信とはデータ通信における着信とは、電話をうけることをいいます。

どちらもデータの送受信方向とは異なります。

本カードは自営標準には対応していません。このため子機登録による家庭モードおよび子機間通信（トランシーバモード）ではご利用いただけません。

## 2 カードセットアップ

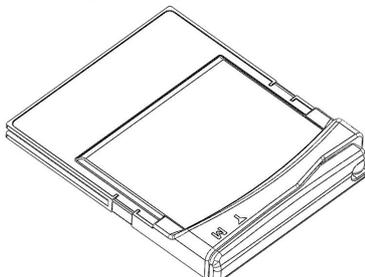
同梱品の確認  
表示ランプについて  
操作の流れ  
Setup Windows 98 / 98 SE / Me  
Setup Windows 2000  
Setup Windows XP  
Setup Windows CE  
Setup Macintosh MacOS X  
Setup Macintosh MacOS  
Setup PDA



## 梱包品の確認

お買い上げいただいたパッケージには、次のものが入っていますので、お使いになる前に確認してください。万一、不足しているものがあつた場合は、お買い上げの販売窓口にお問い合わせください。

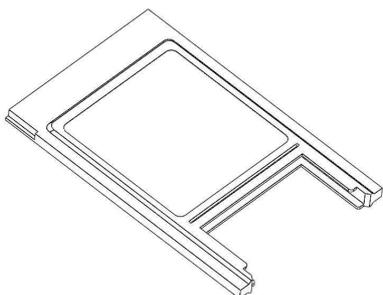
### 本体（1枚）



### 本体（1枚）

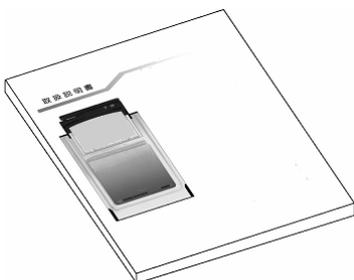
---

#### ・付属品



### PCカードアダプタ（1枚）

PCカードスロット挿入時に使用します。



### ステップガイド(製品によって枚数が異なります)

本カードを使用できるまでのセットアップ方法を簡単に説明しています。AT コマンドの詳細については付属の CD-ROM 内の AT コマンドリファレンスをご覧ください。



**CD-ROM (1枚：製品によって構成が異なります)**

CD-ROM 内には次のものが入っています。お使いのパソコンに合わせてご使用ください。

**Windows 関連**

- ・ Windows 98 / 98SE / Me / 2000 / XP 用セットアップファイル (INF ファイル)
- ・ 取扱説明書
- ・ ソフトウェア

**Macintosh 関連**

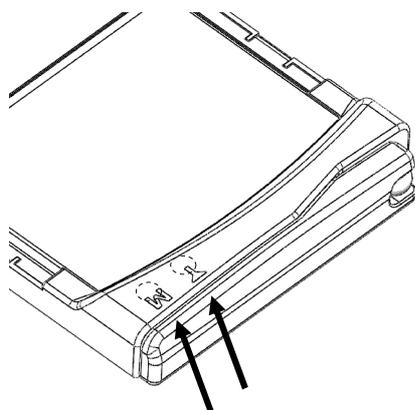
- ・ Macintosh 用 CCL ファイル
- ・ 取扱説明書
- ・ ソフトウェア

**その他**

- ・ マニュアル閲覧用ソフトウェア等

# 表示ランプについて

サービスエリア内の電波状態を 5 段階表示で、また通信状態の区別をお知らせします。



## Y マーク (電波の強さ / 電源状態)

- 緑点灯: 安定した通信が行えます。
- 緑点滅 (長い点灯 短い消灯):
- 緑点滅 (同じ間隔で点灯 消灯):
- 緑点滅 (短い点灯 長い消灯):
- 赤点灯: 通信はできません。
- 消灯: 電源 OFF (電源供給がない。)

電波の状態を 3 段階の点滅でお知らせします。ランプの点灯している時間が短くなるほど電波は弱まります。

## M マーク (発信中 / 着信中)

- 緑点滅: 128k/32k パケット方式
- 橙点滅: フレックスチェンジ方式
- 消灯: 待機中

## M マーク (通信状態)

- 緑点灯: 128k/32k パケット方式
- 橙点灯: フレックスチェンジ方式
- 消灯: 待機中

### 注意

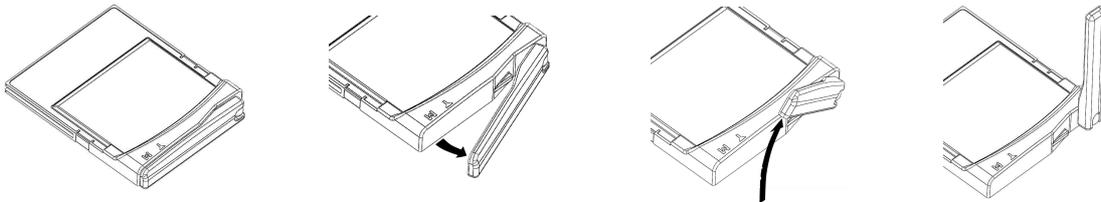
本カードをパソコンや各種 PDA に挿入し電源を投入した際、MODE 側ランプが数秒間、赤に点灯する場合がありますが、これは本カードに対する初期化動作を表示するもので異常ではありません。  
本カードをパソコンや各種 PDA に挿入し電源を投入した際、MODE 側ランプが赤点灯のままの場合には、一度パソコンあるいは各種 PDA の電源を切り、再び投入してください。それでも状態が変わらない場合は、サポートデスクにお問い合わせください。

# アンテナの操作方法

本カードを使ってデータ通信する前に、アンテナの向きを調整し電波の状態を良好にする必要があります。ここでは、アンテナの正しい操作方法を説明します。

## 1. アンテナを立てる

アンテナの端についているつまみを軽く指に引っ掛け、本体より少しアンテナが上にくるまで動かします。その後アンテナの先端を軽くつまみ、アンテナが垂直になるように動かします。



## 2. アンテナの調整

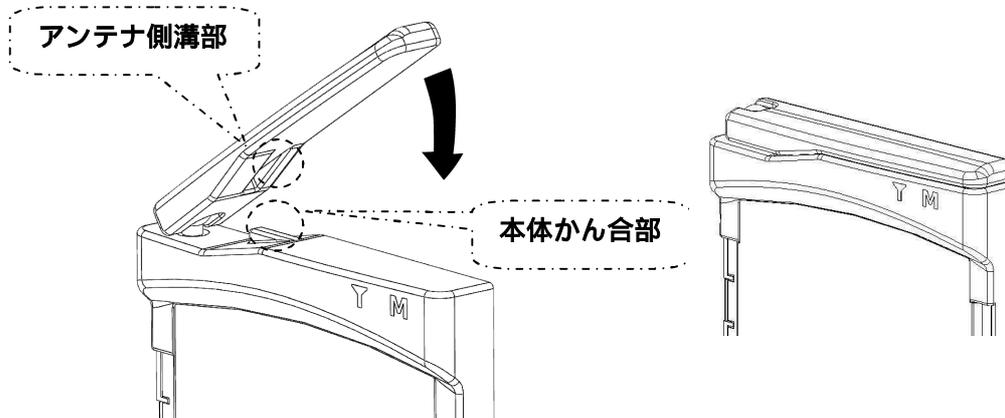
アンテナの調整については通信時直接ランプ表示を確認する方法とユーティリティソフトを使用する方法があります。表示ランプの場合は 13 ページ表示ランプの説明を参照、ユーティリティの場合にはお使いのパソコンなどに表示される電界強度を参考にしながら電波が一番強い状態になるよう、アンテナの先端を軽く指でつまみアンテナを動かします。アンテナの調整を行っても、ランプ表示（アンテナマーク側）が赤点灯のまま変化せず通信ができない場合、電波の届きにくい場所である可能性があります。場所を移動して再度調整してみてください。

## 注意

アンテナの可動範囲を超えた操作はしないでください。もし、アンテナが外れてしまった場合には、  
本体 ○ アンテナ の方向に挿入してください。アンテナ部の破損を防ぐために、過度な力が加わった場合、アンテナが外れる構造になっていますが故意に取り外すと故障の原因となります。たびたび無理な力がかかり、アンテナが外れるようなご利用方法を行うと、アンテナが外れやすくなり紛失の原因となったり、アンテナが自立しなくなったりする事があります。この場合、カードの本来の性能を発揮できなくなりますので、修理が必要になります。

## 3. アンテナの収納

アンテナを収納する際は、アンテナの先端を軽くつまみ、アンテナ軸付近の溝と本カード本体の勘合部を合わせて、かん合部に溝をはめるようにアンテナをたおして収納してください。



# 操作の流れ

本カードを使って通信を行うまでの手順を要約して説明します。ここでは、ブラウザやメールソフトのインストールが完了していることを前提として説明しています。

本カードを使ってデータ通信を行うには、まずカードのセットアップを行わなければなりません。ここでは、インターネットに接続するまでの流れをスクリーンキャプチャで説明しています。この手順に従って、設定を行ってください。

なお、この説明では、代表的な OS やソフトの標準的な設定を解説していますが、使用環境によって多少異なる場合もあります。この場合随時読み替えてご利用ください。

## 1. カードをセットする

本カードをパソコンにセットします。

## 2. カードを認識させる

本カードをパソコンに認識させます。

## 3. ブラウザやメールソフトのインストール

WWW や E-mail サービスなどに対応したソフトのインストールを行います。

これらのソフトは、ご使用のパソコンにあらかじめインストールされているものもあります。

ソフトのインストール方法については、各ソフトのマニュアルをご覧ください。

## 4. アクセスポイントの電話番号などの設定

アクセスポイントの電話番号、通信形式などを手元にひかえ、各種設定をしてください。

なお、各種 PDA の場合は、使用環境によって設定方法が異なりますので、

お使いのパソコンや OS、各種 PDA の取扱説明書などをご覧ください。

## 5. インターネットに接続する

ダイヤルアップ接続して、インターネットに接続します。ユーザー名とパスワードを手元にひかえ、設定してください。なお、各種 PDA の場合は、使用環境や OS によって設定方法が異なりますのでお使いのパソコンや OS、各種 PDA の取扱説明書などをご覧ください。

### 注意

PDA にセットアップの際は PDA によって、アップデータなどのインストールが必要になることがあります。PDA の説明書などをお読みになり、必要な設定を行ってください。

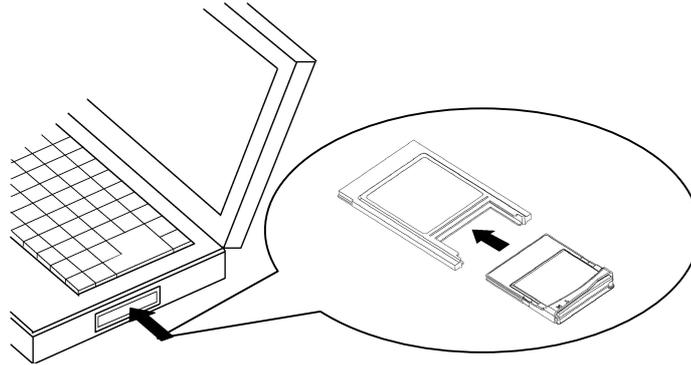
本カードは PC カードスロット TYPE II, III もしくは CF カードスロット TYPE II, III に対応しております。(TYPE I には対応しておりませんのでご注意願います。)

# カードをセットする

1. パソコンまたは PDA の電源をオンにします。

## 2. PC カードのセット

PC カードスロットに挿入する場合は本カードの差し込み方法をご確認の上セットしてください。CF カードスロットがある場合はそのまま挿入してください。差し込み時に周辺の部品や、別の PC カードとの干渉がないことを必ず確認してください。セット時にカードの差し込みが堅い場合などは、対応のカードスロットであること（差し込み口の形状が同じでも、カードの規格が異なることがあります。）差し込み方向がまっていることなどをご確認ください。斜めに差し込んだりしようとしている場合、うまく差し込めないことがあります。



この後にカードを認識させる必要があります。各 OS によって操作手順が異なりますので、ご利用の OS にあったページへお進みください。

### 注意

PC カードスロットがひとつしかなく、またその PC カードスロットを経由して外付け CD-ROM ドライブを使用する場合にはあらかじめ準備が必要です。

# Setup Windows 98 / 98SE / Me

はじめに、それぞれの OS のドライバインストールを参照して、ドライバのインストールを行ってください。  
次に Windows 98 / 98SE / Me 共通のインターネット接続設定へお進みください。

## Windows 98 / 98 SE ドライバインストール

1. パソコンの電源を ON にし、Windows 98 / 98 SE を起動します。
2. 本カードに付属しているセットアップ用 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。

注意：

セットアップ用 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すると、自動でパソコンが CD-ROM を読み込みます。パソコンが CD-ROM を読み込んでいる最中にセットアップを行うと、正常にセットアップできないことがありますので CD-ROM の読み込みが終わるまで数秒待ってから次の手順に進んでください。

3. 本カードをパソコンのカードスロットに挿入します。「新しいハードウェアを検出しました」というダイアログボックスが表示された後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。[次へ] をクリックします。



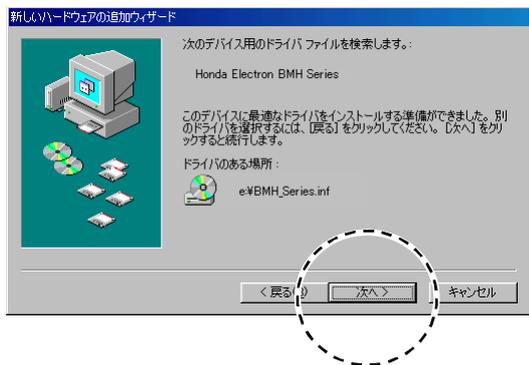
4. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する] にチェックして、[次へ] をクリックします。



5 .[ CD-ROM ドライブ ] のチェックボックスにチェックし、[ 次へ ] をクリックします。



6 .[ 次へ ] をクリックします。



7 .[ 完了 ] をクリックします。



一度設定すれば、以降は本カードを挿入するだけでカードが自動認識されます。認識がうまくいかない場合は、「困ったときに」のフローに従って確認を行い、再度設定してください。

インターネット設定に進んでください

## Windows Me ドライバインストール

### 注意

セットアップする前に、お使いのパソコンに Windows Me がプリインストールされているか確認してください。プリインストールされていない場合は、Windows Me をインストールして使用できるかパソコンメーカーに必ずご確認ください。またその際は、必ずパソコンメーカーの指示（BIOS アップデートなど）を守って、インストールしてください。

1. パソコンの電源を ON にし、Windows Me を起動します。

2. 本カードに付属しているセットアップ用 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。

### 注意

セットアップ用 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すると、自動でパソコンが CD-ROM を読み込みます。パソコンが CD-ROM を読み込んでいる最中にセットアップを行うと、正常にセットアップできないことがありますので CD-ROM の読み込みが終わるまで数秒待ってから次の手順に進んでください。

3. 本カードをパソコンのカードスロットに挿入します。「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。



4. 「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスの [ 適切なドライバを自動的に検索する ] のチェックボックスにチェックがついていることを確認した上で [ 次へ ] をクリックします。



5 . Windows Me が自動的にドライバファイルを検出します。次の画面が表示されたら [完了] をクリックします。これで認識作業は完了です。



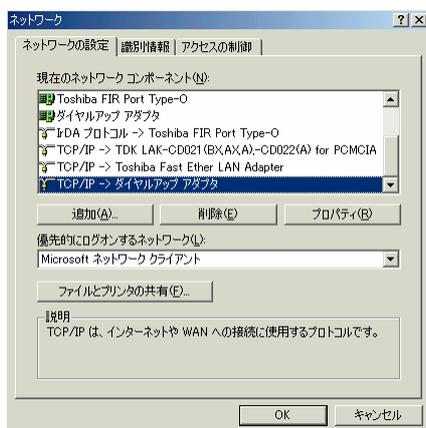
一度設定すれば、以降は本カードを挿入するだけでカードが自動認識されます。認識がうまくいかない場合は、「困ったときに」のフローに従って確認を行い、再度設定してください。

6 . インターネット設定に進んでください。

## Windows 98 / 98 SE / Me のインターネット設定

ネットワークに接続するためには、通常ダイヤルアップネットワークを使います。ダイヤルアップネットワークがお使いのパソコンにインストールされていない場合は、Windows 98 / 98SE / Me それぞれのマニュアルをご覧ください。インストールしてください。すでにインストールされている場合は次の手順に進んでください。なお、ここでは Windows Me の画面を使って説明しますが、Windows 98 / 98SE でも操作はほぼ同様です。操作が異なる箇所に関しては、その手順内で説明します。

1. デスクトップ画面上から [マイコンピュータ] [コントロールパネル] [ネットワーク] とアイコンをダブルクリックしていきます。「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されますので「現在のネットワークコンポーネント」のリストに TCP/IP のコンポーネントが設定されていることを確認してください。確認が済んだら [OK] をクリックして、「コントロールパネル」ウィンドウに戻りますので「コントロールパネル」ウィンドウを閉じてください。



### 注意

TCP/IP がインストールされていない場合は、[追加] をクリックして、TCP/IP をインストールしてください。インストール方法については、Windows 98 / 98SE / Me のマニュアルをご覧ください。

2. デスクトップ画面上の [スタート] から [プログラム] [アクセサリ] [通信] [ダイヤルアップネットワーク]

3. [接続名] としてプロバイダの名称や通信方式など(例: b-mobile)を入力し、[モデムの選択] で「Honda Electron BMH Series」を選択して [次へ] をクリックします。



### 注意

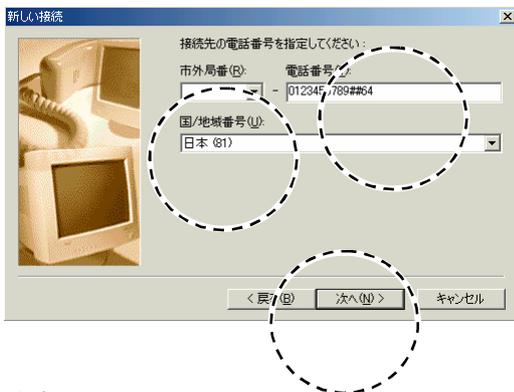
[モデムの選択] で「Honda Electron BMH Series」が表示されない場合、お使いのパソコンに本カードが正しく認識されていないことが考えられます。その場合は、[キャンセル] をクリックして、この手順を一時中断し、本カードを認識させてください。

4. アクセスポイントの電話番号を確認します。

アクセスポイントの電話番号はご使用のサービスによって異なることがあります。またアクセスポイントの通信形式によっても異なることがあります。プロバイダから取得した情報をもとに、アクセスポイントの通信方式を確認してください。



5. ダイアログボックスにアクセスポイントの電話番号を入力します。市外局番の欄は空欄にしておいてください。電話番号の欄に、利用する通信方式に対応した電話番号（例：0123-456-789）を入力し、電話番号の最後に通信方式を指定する##mnを加えてください。



注意

電話番号入力時、以下のように入力してください。

フレックスチェンジモードの場合

0123456789##7

シングルリンクモード（32k パケット方式）の場合

:0123456789##61

マルチリンクモード（128k パケット方式）の場合

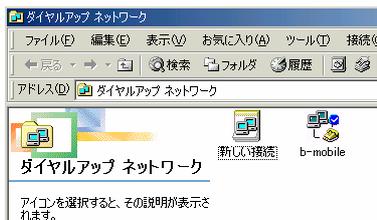
:0123456789##64

国番号は [ 日本 ( 81 ) ] を選択し、[ 次へ ] をクリックしてください。

6. [完了] をクリックして、ウィザードを終了します。「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウ内に手順 3 で指定した名前のアイコンが作成されます。



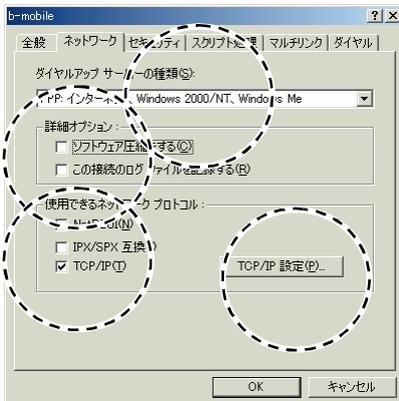
7. 「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウ内に作成されたアイコンをクリックし、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選択します。



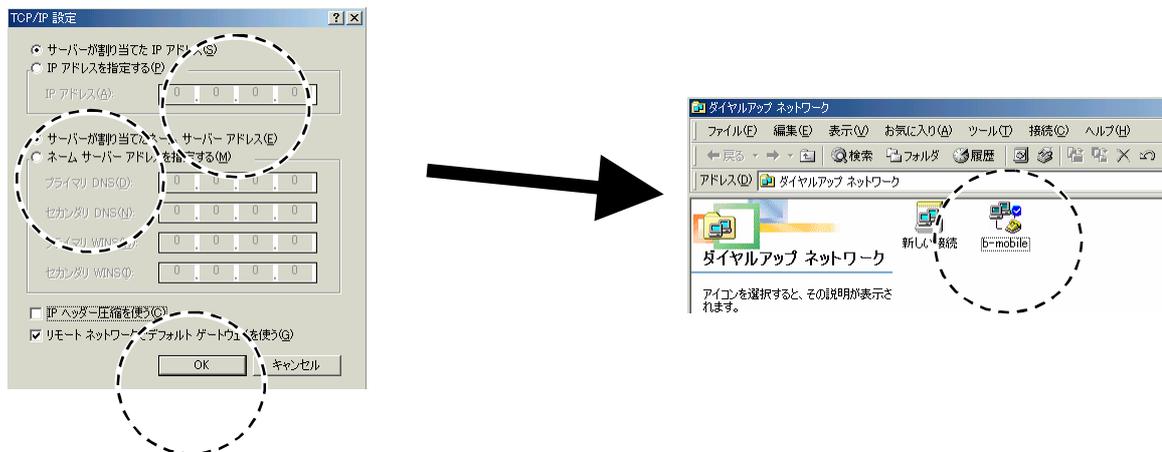
8. [市外局番とダイヤルのプロパティを使う]チェックボックスのチェックをはずし、[ネットワーク]タブをクリックします。Windows 98 / 98SE の場合は、[市外局番とダイヤルのプロパティを使う]のチェックボックスのチェックをはずし、[サーバーの種類]タブをクリックします。



9. サーバーの種類は [ PPP : インターネット、Windows 2000 / NT、Windows Me ] を選択し、詳細オプションは全てチェックをはずします。使用できるネットワークプロトコルで [ TCP / IP ] のみを選択し、[ TCP / IP 設定 ] をクリックします。Windows 98 / 98 SE の場合は、[ PPP : インターネット、Windows NT Server、Windows 98 ] を選択し、詳細オプションは全てチェックをはずします。使用できるネットワークプロトコルで [ TCP / IP ] のみを選択し、[ TCP / IP 設定 ] をクリックします。



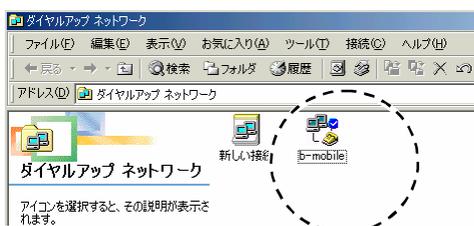
10. [ サーバーが割り当てた IP アドレス ] [ サーバーが割り当てたネームサーバアドレス ] [ リモートネットワークでデフォルトゲートウェイを使う ] のチェックボックスにチェックをつけ、[ IP ヘッダー圧縮を使う ] のチェックボックスはチェックをはずします。設定が完了したら、「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウに、次のようなアイコンが表示されるまで [ OK ] を続けてクリックします。このアイコンが表示されれば、設定は完了です。



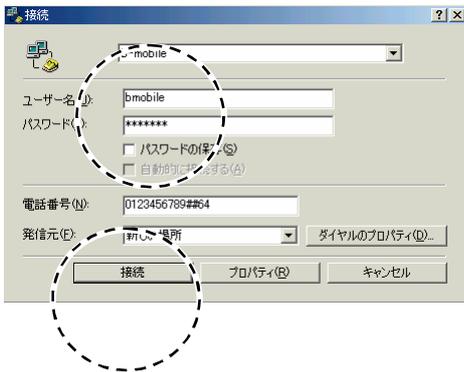
11. 作成された「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウ内のアイコンをダブルクリックします。

12. インターネットに実際に接続するためには、以下の情報をお手元に用意してください。

ユーザー名  
パスワード



13. ユーザー名とパスワードを入力し、[ 接続 ] をクリックします。インターネットへの接続が開始します。



注意：

画像のユーザー名は、bmobile となっていますが、実際のユーザー名を入力してください。

14. 「手順の流れ」の「ブラウザやメールソフトのインストール」でインストールしたインターネットエクスプローラなどのブラウザのソフトを起動してください。

# Setup Windows 2000

1. パソコンの電源を ON にし、Windows 2000 を起動した後、本カードをパソコンのカードスロットに挿入します。「新しいハードウェアが見つかりました」というダイアログボックスが表示された後、「標準 PCMCIA カードモデム」としての認識作業が一旦終了します。

2. 本カードに付属しているセットアップ用 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。

注意：

セットアップ用 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すると、自動でパソコンが CD-ROM を読み込みます。パソコンが CD-ROM を読み込んでいる最中にセットアップを行うと、正常にセットアップできないことがありますので CD-ROM の読み込みが終わるまで数秒待ってから次の手順に進んでください。

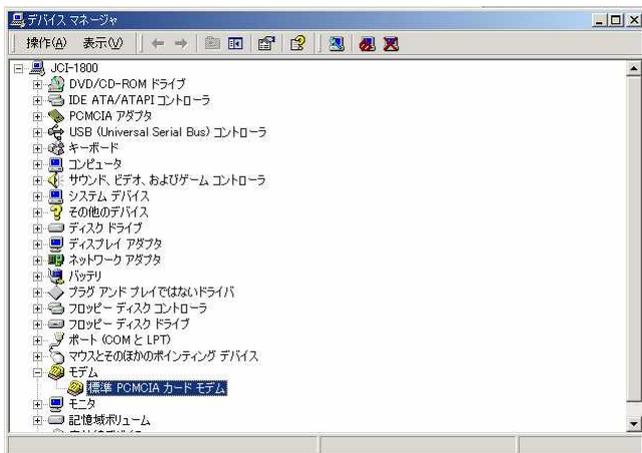
3. デスクトップ画面上から [ スタート ] [ 設定 ] [ コントロールパネル ] と開いていくと、「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。この中の [ システム ] をダブルクリックします。「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます



4. 「ハードウェア」をクリックして [ デバイスマネージャ ] をクリックします。「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。



5 .[ モデム ] をダブルクリックした上で、[ 標準 PCMCIA カードモデム ] をダブルクリックします。「標準 PCMCIA カードモデムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。



### 注意

「標準 PCMCIA カードモデム」が複数登録されている場合、「標準 PCMCIA カードモデムのプロパティ」ウィンドウ（5 の図を参照）を開き「診断」タブをクリックして、表示されるウィンドウの「モデム情報」欄に下記のリストが表示されているのを確認した上で、以降の作業に進んでください。

PCMCIA ¥ HONDA ELECTRON CO.,LTD.BMH Series（カードにより名称が異なることがあります。）

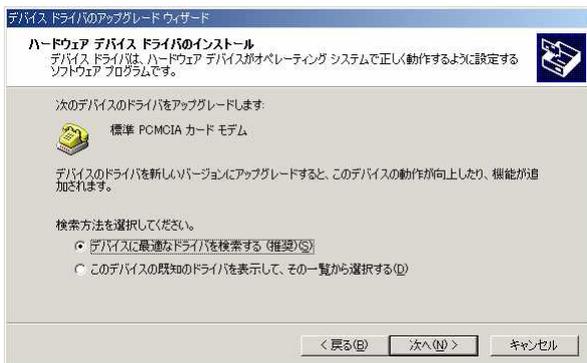
6 .[ ドライバ ] タブをクリックして、[ ドライバの更新 ] をクリックします。「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。



7 .[ 次へ ] をクリックします。



8 .[ デバイスに最適なドライバを検索する ]のチェックボックスにチェックがついていることを確認し、[ 次へ ]をクリックします。



9 .[ CD-ROM ドライブ ]にチェックがついているのを確認し、[ 次へ ]をクリックします。チェックがついていない場合は [ CD-ROM ドライブ ]をクリックし、チェックをつけてください。



10 .[ 次へ ]をクリックします。



11 .[ デジタル署名が見つかりませんでした ] というウィンドウが表示されますが、[ はい ] をクリックしてインストールを続行します。



12 .[ 完了 ] をクリックします。



13 .[ マイコンピュータ ] [ コントロールパネル ] 中の [ 電話とモデムのオプション ] をダブルクリックします。[ モデム ] タブをクリックし、モデム表示の中に本カードの表示があれば本カードの準備設定は完了です。一度設定すれば、以降は本カードを挿入するだけでカードが自動認識されます。認識がうまくいかない場合は、「困ったときに」のフローに従って確認を行い、再度設定してください。

#### 14 . インターネット設定 Windows 2000

ネットワークに接続するためには、通常ダイヤルアップネットワークおよび TCP/IP を使います。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、Windows 2000 のマニュアルをご覧ください。すでにインストールされている場合は、次の手順で進んでください。

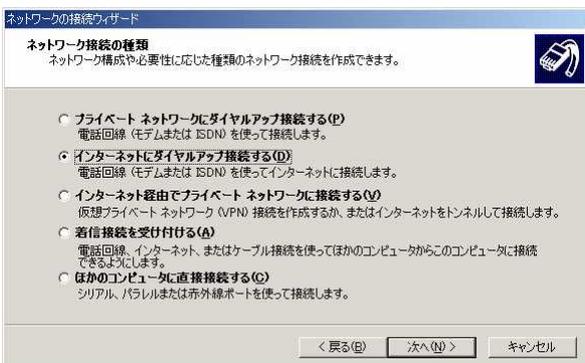
15. デスクトップ画面の [ スタート ] から [ プログラム ] [ アクセサリ ] [ 通信 ] [ ネットワークとダイヤルアップ接続 ] と開いていくと、「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内にある [ 新しい接続の作成 ] をダブルクリックします。「ネットワークの接続ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。



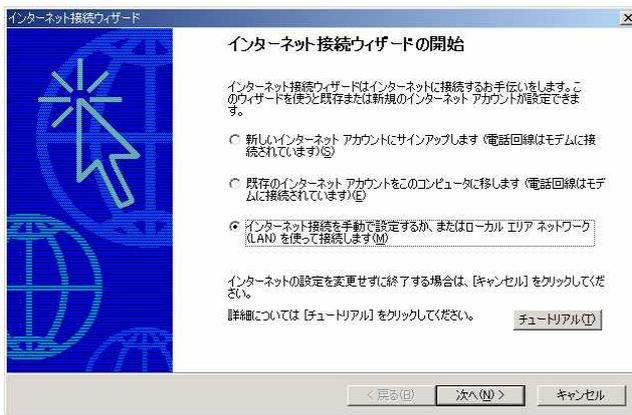
16. [ 次へ ] をクリックします。



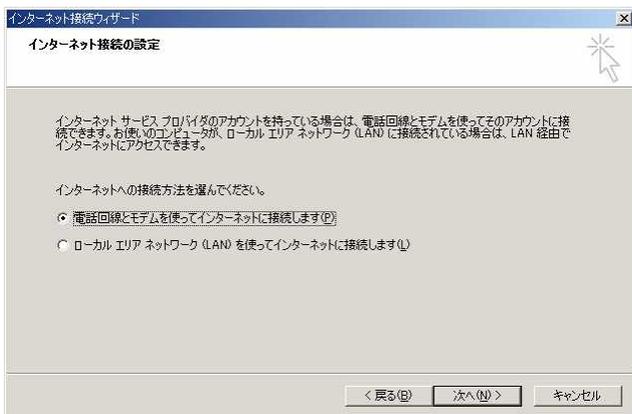
17. [ インターネットにダイヤルアップ接続する ] チェックボックスにチェックして [ 次へ ] をクリックします。「インターネットの接続ウィザード」ウィンドウが表示されます。



18. [ インターネットを手動で設定するかローカルエリアネットワークを使って接続します ] チェックボックスにチェックして [ 次へ ] をクリックします。



19. [ 電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します ] チェックボックスにチェックして [ 次へ ] をクリックします。



20. [ モデムの選択 ] で「Honda Electron BMH Series」を選択して [ 次へ ] をクリックします。内蔵モデムなど他のモデムがインストールされていない場合は、この画面が表示されませんので次の手順に進んでください。



注意 : [ モデムの選択 ] で「Honda Electron Series」が表示されない場合、お使いのパソコンに本カードが正しく認識されていないことが考えられます。その場合は、[ キャンセル ] をクリックして、この手順を一時中断し、本カードを認識させてください。

21. アクセスポイントの電話番号を確認します。

アクセスポイントの電話番号はご使用のサービスによって異なることがあります。またアクセスポイントの通信形式によっても異なることがあります。プロバイダから取得した情報をもとに、アクセスポイントの通信方式を確認してください。

22. ダイアログボックスにアクセスポイントの電話番号を入力します。

市外局番の欄は空欄にしておいてください。電話番号の欄に、利用する通信方式に対応した電話番号（例：0123-456-789）を入力し、電話番号の最後に通信方式を指定する##mnを加えてください。

#### 注意

電話番号入力時、以下のように入力してください。

フレックスチェンジモードの場合

:0123456789# #7

シングルリンクモード（32k パケット方式）の場合

:0123456789# #61

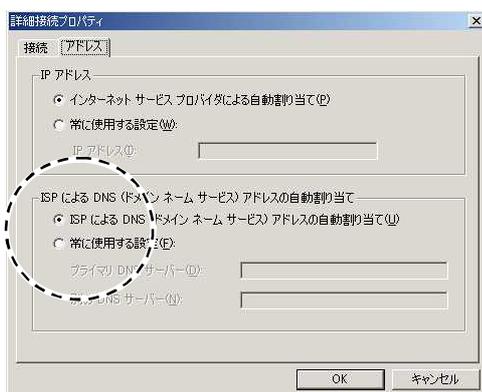
マルチリンクモード（128k パケット方式）の場合

:0123456789# #64

国番号は [ 日本 (81) ] を選択し、[ 市外局番とダイヤル情報を使う ] チェックボックスのチェックをはずして [ 詳細設定 ] をクリックしてください。



23. [アドレス]タブにある[ISP による DNS (ドメインネームサービス) アドレスの自動割り当て]にある [常に使用する設定] チェックボックスにチェックをつけ、DNS サーバーのアドレスを入力し、[ OK ] をクリックします。



#### 注意

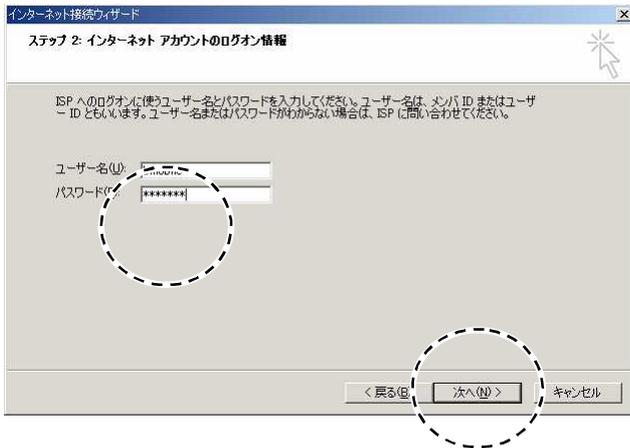
プロバイダからネームサーバーアドレスが指定されていない場合や、接続ができない場合は、「ISP による DNS (ドメインネームサービス) アドレスの自動割り当て (U)」を指定してください。

24. 手順 22 の画面に戻りますので[次へ]をクリックします。

**注意**

[次へ]をクリックした後に電話番号の入力についてエラーメッセージが表示される場合があります。その場合は、[戻る]をクリックして 8 の画面まで戻り、“##mn”の入力を削除して設定を進めてください。

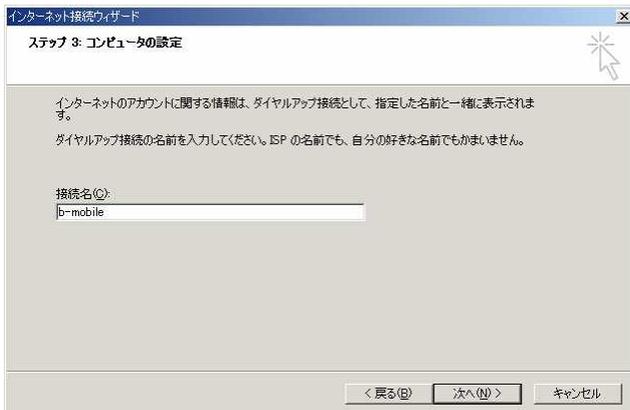
25. インターネットアカウントのログオン情報（ユーザー名/パスワード）を入力し、[次へ]をクリックします。



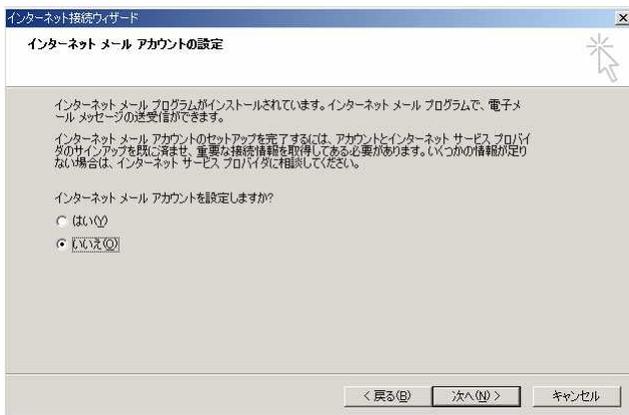
**注意**

画像のユーザー名は、bmobile となっていますが、入力する場合は、プロバイダから取得したユーザー名を入力してください。

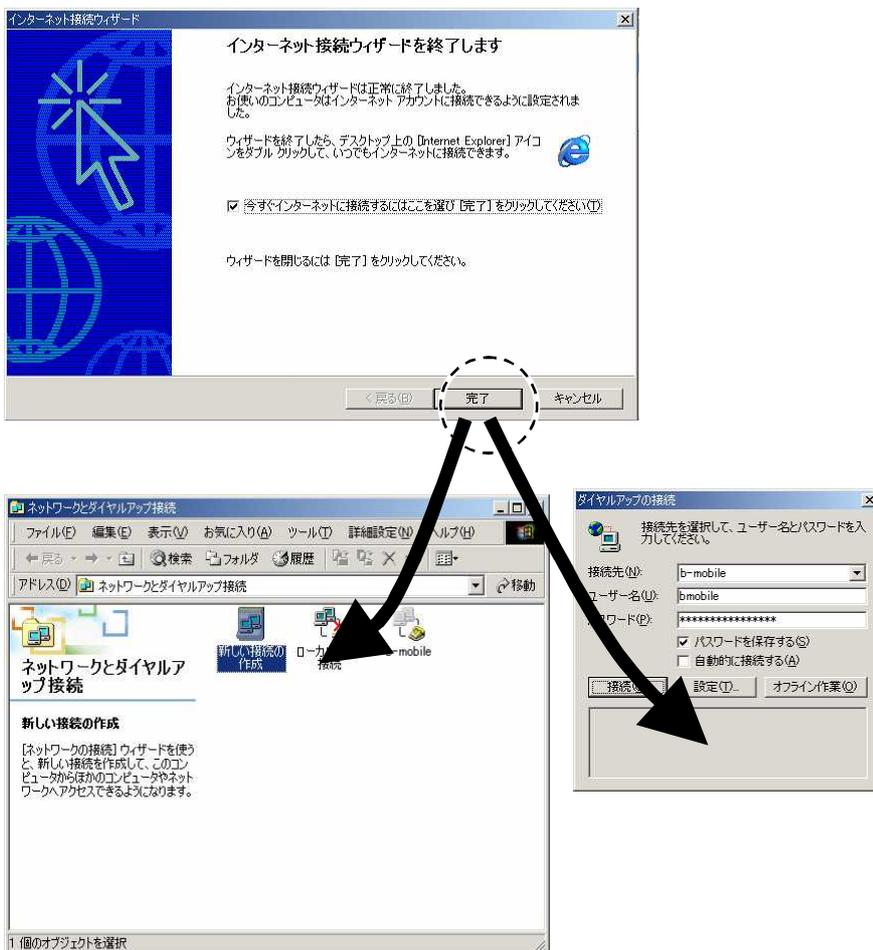
26. 接続名として、プロバイダの名称や通信方式など（例：b-mobile）を入力して、[次へ]をクリックします。



27. [いいえ] チェックボックスにチェックをつけ、[次へ] をクリックします。  
(メールアカウントの設定は、後からインターネット接続ウィザードを起動して設定することができます。)



28. [完了] をクリックして、ウィザードを終了します。「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウ内に指定した名前前のアイコンが作成されています。下記画面で[今すぐインターネットに接続するには...] チェックボックスにチェックがついていると、[ダイヤルアップの接続] ダイアログボックスが表示されます。



## 注意

[10]で“ ##mn ”が入力できなかった場合、作成されたアイコンを右クリックして表示されるメニューからプロパティを選択して表示させます。プロパティ画面・“全般”タブ中の電話番号入力欄に、“ ##mn ”を追加入力して[OK]をクリックしてください。

インターネットに実際に接続するためには、プロバイダから取得した以下の情報を手元に用意してください。

ユーザー名

パスワード

29. 作成された「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウ内のアイコン（例では b-mobile ）のアイコンをダブルクリックします。



30. プロバイダから取得したユーザ名とパスワードを入力し、[ダイヤル]をクリックします。プロバイダへの接続が開始されます。



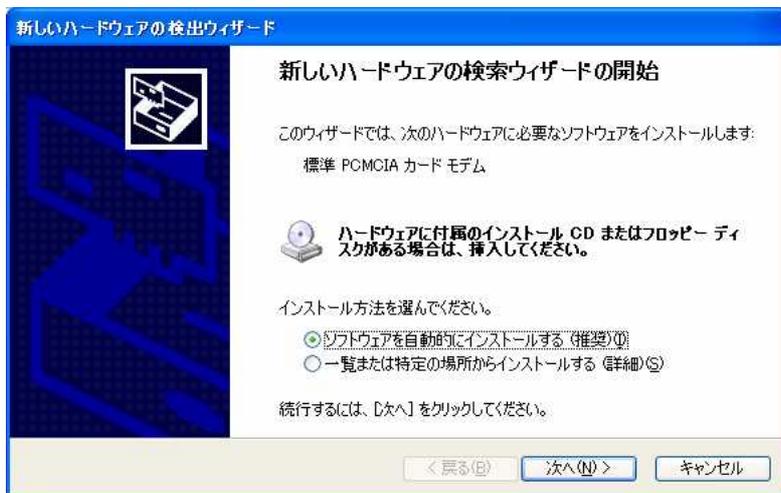
31. 「手順の流れ」の「ブラウザやメールソフトのインストール」でインストールしたインターネットエクスプローラなどのブラウザのソフトを起動してください。

# Setup Windows XP

## 注意

セットアップする前に、お使いのパソコンに Windows XP がプリインストールされているか確認してください。インストールされていない場合は、Windows XP をインストールして使用できるかパソコンメーカーに必ずご確認ください。またその際は、必ずパソコンメーカーの指示 (BIOS アップデートなど) を守って、インストールしてください。

1. パソコンの電源を ON にし、Windows XP を起動します。
2. 本カードをパソコンのカードスロットに挿入します。  
「新しいハードウェアの検索ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

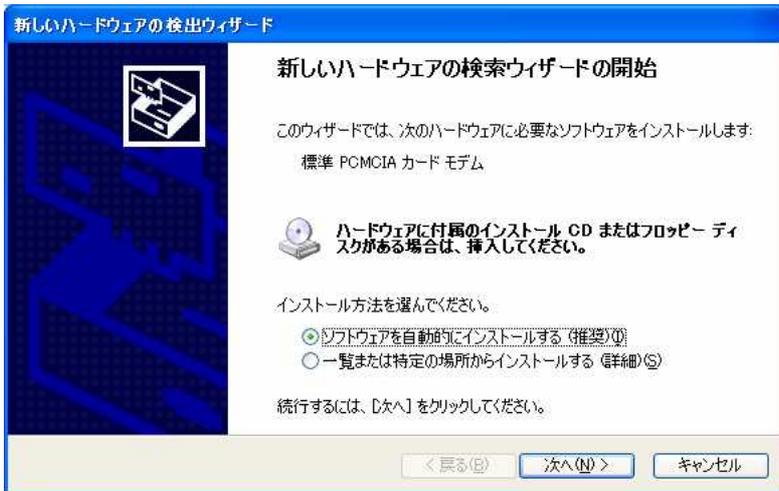


3. 本カードに付属しているセットアップ用 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。

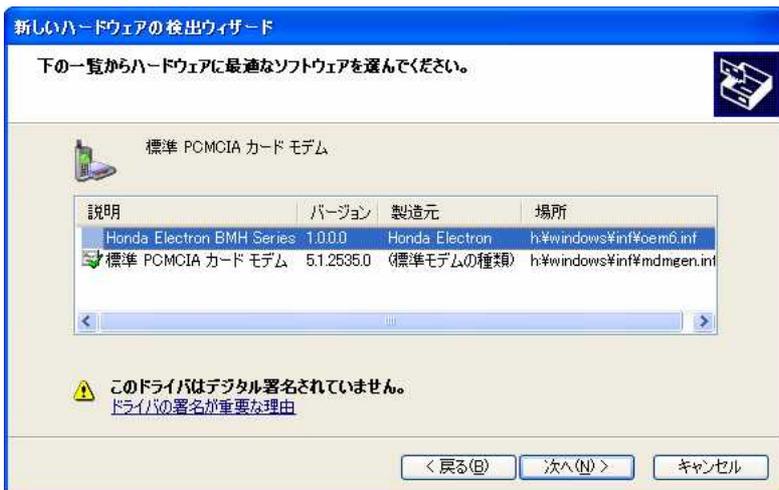
## 注意

セットアップ用 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すると、自動でパソコンが CD-ROM を読み込みます。パソコンが CD-ROM を読み込んでいる最中にセットアップを行うと、正常にセットアップできないことがありますので CD-ROM の読み込みが終わるまで数秒待ってから次の手順に進んでください。

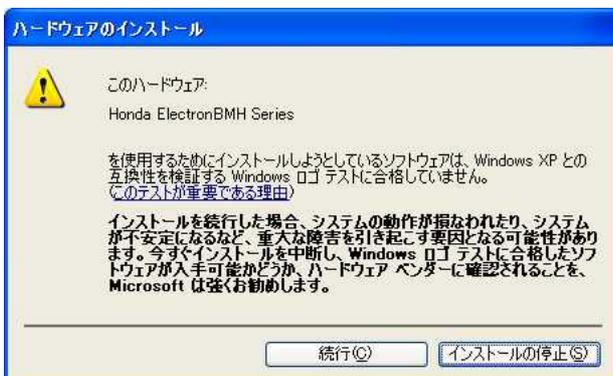
4. 「新しいハードウェアの検索ウィザード」ダイアログボックスの [ソフトウェアを自動的にインストールする] のチェックボックスにチェックがついていることを確認した上で [次へ] をクリックします。



5. OS が自動的にドライバファイルを検出し、次の画面が表示されます。「Honda Electron BMH Series」を選択し [次へ] をクリックします。



6. 次のダイアログボックスが表示されたら [続行] をクリックし、インストールを続けます。



7. 次の画面が表示されたら [完了] をクリックします。これで認識作業は完了です。



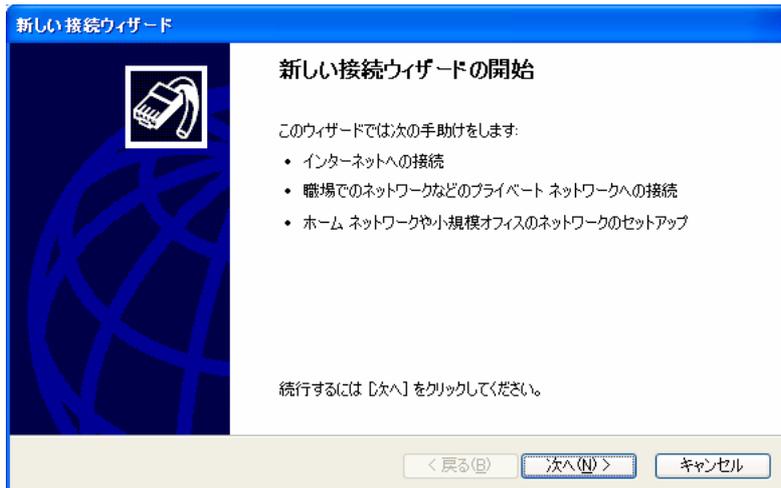
一度設定すれば、以降は本カードを挿入するだけでカードが自動認識されます。認識がうまくいかない場合は、「困ったときに」のフローに従って確認を行い、再度設定してください。

インターネットの接続設定をする。  
ネットワークに接続するためには、通常ダイヤルアップネットワークおよび TCP/IP を使います。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、Windows XP のマニュアルをご覧ください。  
すでにインストールされている場合は、次の手順で進んでください。

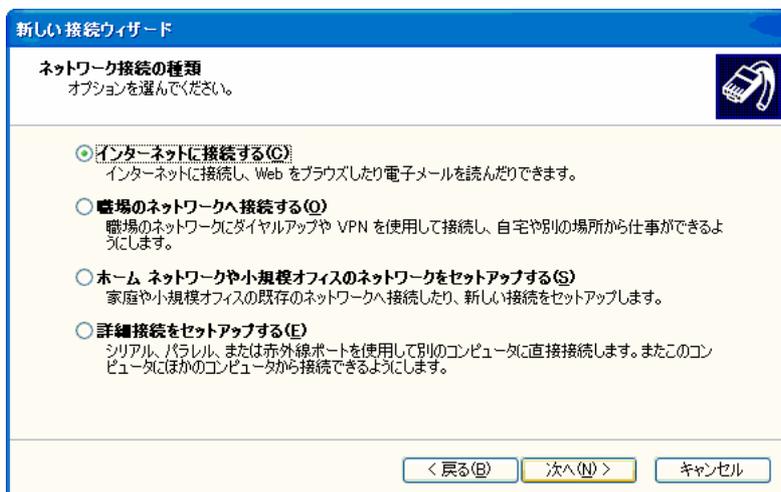
8. デスクトップ画面上の [スタート] から [すべてのプログラム (P)] [アクセサリ] [通信] [ネットワーク接続] と開いていくと、「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内にある [ネットワークタスク] の中の [新しい接続の作成] をダブルクリックします。「新しい接続ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。



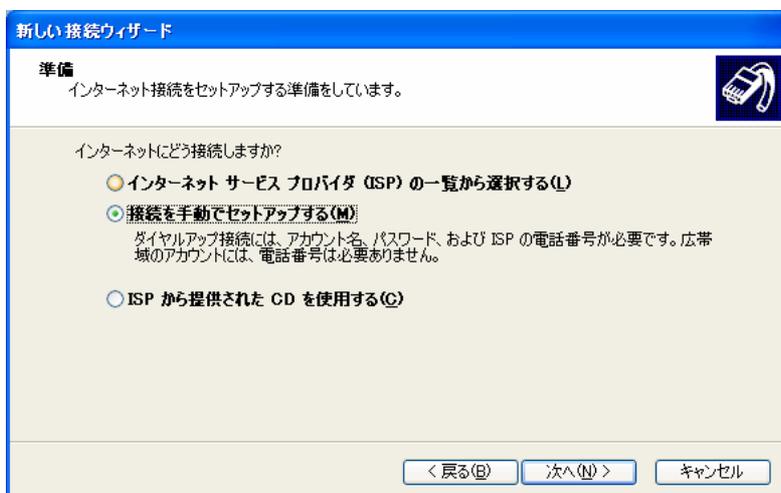
9 .[ 次へ ] をクリックします。



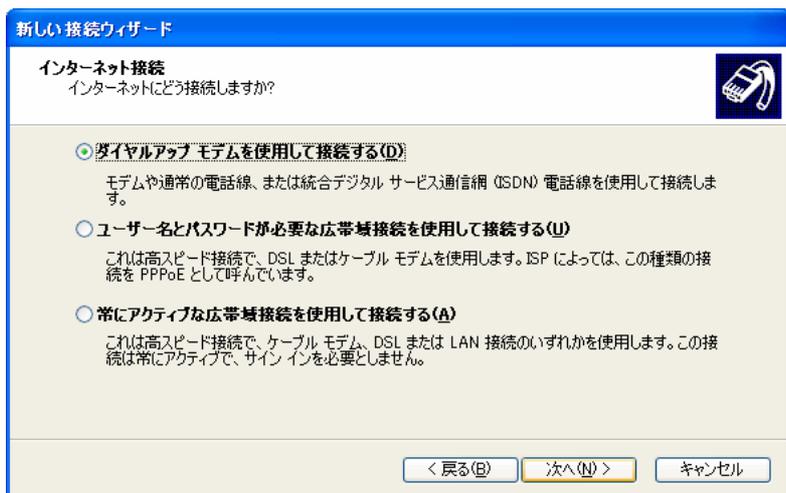
10 .[ インターネットに接続する ] のチェックボックスにチェックして [ 次へ ] をクリックします。



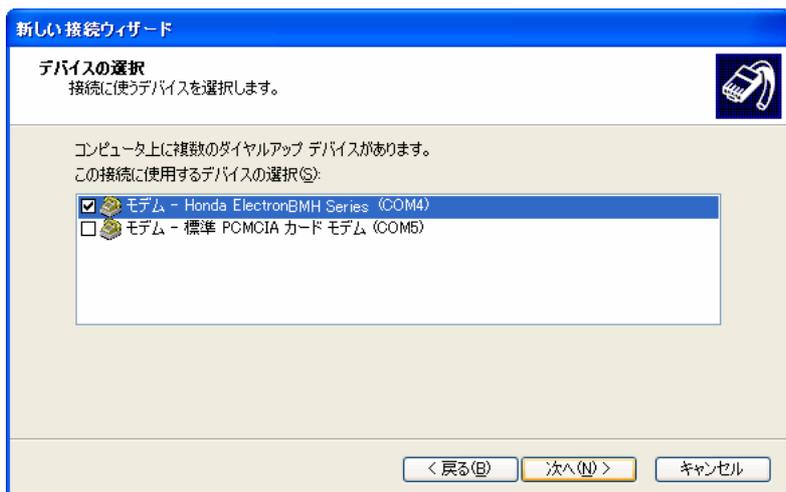
11 .[ 接続を手動でセットアップする ] のチェックボックスにチェックして [ 次へ ] をクリックします。



12 . [ダイヤルアップモデムを使用して接続する] のチェックボックスにチェックして [次へ] をクリックします。



13 . [デバイスの選択] で「Honda Electron BMH Series」を選択して、[次へ] をクリックします。内蔵モデムなど他のモデムがインストールされていない場合は、この画面が表示されませんので手順 7 へ進んでください。



#### 注意

[デバイスの選択] で「Honda Electron BMH Series」が表示されない場合、お使いのパソコンに本カードが正しく認識されていないことが考えられます。その場合は、[キャンセル] をクリックして、この手順を一時中断し、本カードを認識させてください。

14. ISP 名としてプロバイダの名称や通信方式など（例：b-mobile）を入力して「次へ」をクリックします。（ここに入力された名前は作成している接続の名前になります）

15. アクセスポイントの電話番号を確認します。

アクセスポイントの電話番号はご使用のサービスによって異なることがあります。またアクセスポイントの通信形式によっても異なることがあります。プロバイダから取得した情報をもとに、アクセスポイントの通信方式を確認してください。

16. ダイアログボックスにアクセスポイントの電話番号を入力します。

電話番号の欄に、利用する通信方式に対応した電話番号（例：0123-456-789）を市外局番から入力し、電話番号の最後に通信方式を指定する ##mn を加えて「次へ」をクリックします。

#### 注意

電話番号入力時、以下のように入力してください。

フレックスチェンジモードの場合

0123456789# #7

シングルリンクモード（32k パケット方式）の場合

:0123456789# #61

マルチリンクモード（128k パケット方式）の場合

:0123456789# #64

17. インターネットアカウントのログオン情報（ユーザー名 / パスワード）を入力し、  
[ 次へ ] をクリックします。

The screenshot shows the '新しい接続ウィザード' (New Connection Wizard) dialog box. The title bar is blue with the text '新しい接続ウィザード'. The main content area has a light beige background. At the top left, it says 'インターネット アカウント情報' (Internet Account Information) and 'インターネット アカウントにサインインするにはアカウント名とパスワードが必要です。' (To sign in to an Internet account, you need an account name and password.). Below this is a note: 'ISP アカウント名およびパスワードを入力し、この情報を書き留めてから安全な場所に保管してください。(既存のアカウント名またはパスワードを忘れてしまった場合は、ISP に問い合わせてください。)' (Enter your ISP account name and password, save this information, and store it in a safe place. If you forget your account name or password, contact your ISP.). There are three input fields: 'ユーザー名(U):' (Username) with 'bmobile' entered, 'パスワード(P):' (Password) with '\*\*\*\*\*' entered, and 'パスワードの確認入力(C):' (Confirm password) with '\*\*\*\*\*' entered. Below the fields are three checked checkboxes: 'このコンピュータからインターネットに接続するときは、だれでもこのアカウント名およびパスワードを使用する(S)' (When connecting to the Internet from this computer, allow anyone to use this account name and password.), 'この接続を既定のインターネット接続とする(M)' (Make this connection the default Internet connection.), and 'この接続のインターネット接続ファイアウォールをオンにする(F)' (Turn on the Internet connection firewall for this connection.). At the bottom are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

### 注意

画像のユーザー名は、bmobile となっていますが、入力する場合は、プロバイダから取得したユーザー名を入力してください。

18. [ 完了 ] をクリックします。

The screenshot shows the '新しい接続ウィザード' (New Connection Wizard) dialog box at the completion stage. The title bar is blue with the text '新しい接続ウィザード'. The main content area has a light beige background. On the left side, there is a blue graphic of a globe with a mobile phone icon overlaid. The text in the center says '新しい接続ウィザードの完了' (New Connection Wizard Completion) and '次の接続の作成に必要な手順は正常に完了しました。' (The steps required to create the next connection have been completed normally.). Below this is a section for 'b-mobile' with a bulleted list: '既定の接続にする' (Make the default connection), 'この接続はファイアウォールを使用する' (This connection uses the firewall), 'このコンピュータのすべてのユーザーと共有する' (Share this connection with all users on this computer), and 'すべての人に同じユーザー名とパスワードを使用する' (Use the same username and password for everyone). Below the list, it says 'この接続は、[ネットワーク接続] フォルダに保存されます。' (This connection will be saved in the [Network Connections] folder.). There is one unchecked checkbox: 'この接続へのショートカットをデスクトップに追加する(S)' (Add a shortcut to this connection to the desktop.). At the bottom, it says '接続を作成してウィザードを閉じるには、[完了] をクリックしてください。' (To create the connection and close the wizard, click [Finish]). At the bottom are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '完了' (Finish), and 'キャンセル' (Cancel). A black arrow points downwards from the '完了' button.



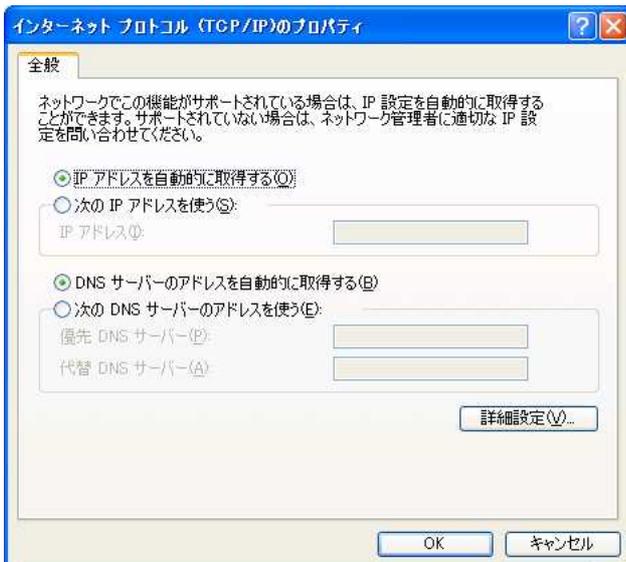
19. 「ネットワーク接続」ウィンドウ内に作成されたアイコン(例では b-mobile)をクリックし、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選択します。該当のプロパティウィンドウが表示されます。



20. [ネットワーク]タブをクリックし、[この接続は次の項目を使用します]でインターネットプロトコル (TCP/IP)]を選択して、プロパティをクリックします。



21. [DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する]オプションを選択します。設定が完了したら「ネットワーク接続」ウィンドウに次のようなアイコンが表示されるまで[OK]を続けてクリックします。このアイコンが表示されれば、設定は完了です。



22. 作成された「ネットワーク接続」ウィンドウ内のアイコン（例では b-mobile）をダブルクリックします。



インターネットに実際に接続するためには、プロバイダから取得した以下の情報をお手元に用意してください。

ユーザー名  
パスワード

23. プロバイダから取得したユーザー名とパスワードを入力し、[ダイヤル] をクリックします。プロバイダへの接続が開始されます。



#### 注意

画像のユーザー名は、bmobile となっていますが、入力する場合は、プロバイダから取得したユーザー名を入力してください

24. 「手順の流れ」の「ブラウザやメールソフトのインストール」でインストールしたインターネットエクスプローラなどのブラウザのソフトを起動してください。

# Setup Windows CE

Windows CE はカードを認識させるための設定は特に必要なく、本カードを挿入するだけで認識します。

1. デスクトップ画面上の [ スタート ] から [ プログラム ] [ 通信 ] [ リモートネットワーク ] と開いていくと、「リモートネットワーク」ウィンドウが表示されます。その中の [ 新しい接続 ] をダブルクリックします。「新しい接続」ダイアログボックスが表示されます。



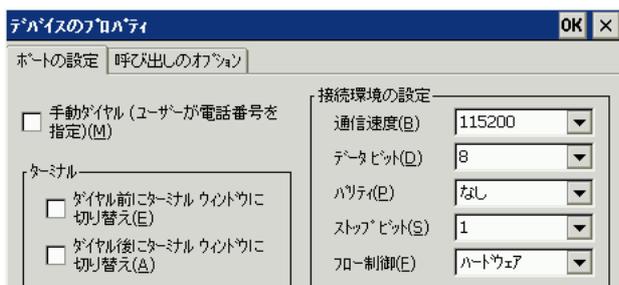
2. [ 接続名 ] としてプロバイダの名称や通信方式など (例 : b-mobile) を入力し、[ ダイヤルアップ接続 ] チェックボックスにチェックして [ 次へ ] をクリックします。



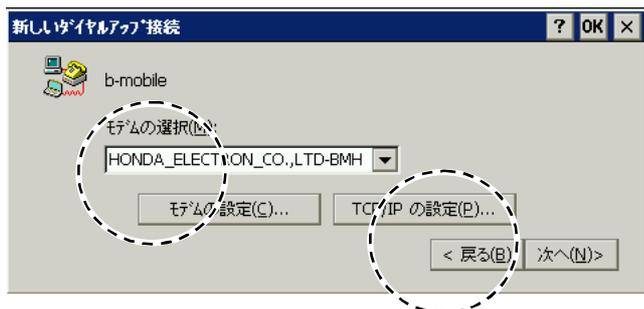
3. [ モデムの選択 ] で「HONDA\_ELECTRON\_CO.,LTD -BMH Series」を選択し、[ モデムの設定 ] をクリックします。



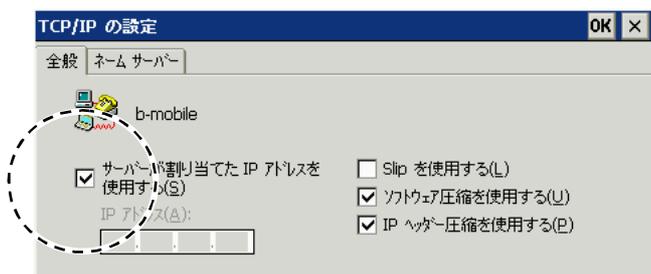
4. [ 通信速度 ] で [ 115200 ] を選択し、[ OK ] をクリックします。



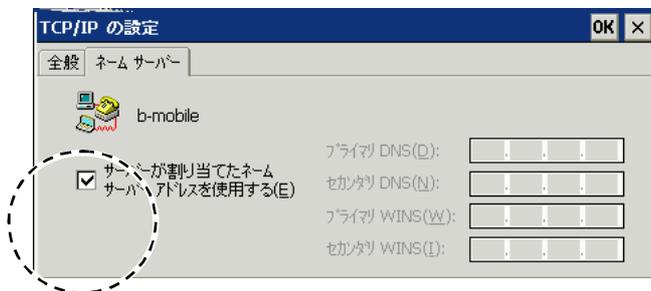
5 . [ TCP/IP の設定 ] をクリックします。



6 . TCP/IP の設定は、契約したプロバイダによってそれぞれ違います。プロバイダの指示に従ってチェックをつけてください。その後、[ ネームサーバー ] タブをクリックします。



7 . [ サーバーが割り当てたネームサーバーアドレスを使用する ] にチェックを入れ、[ OK ] をクリックします。



8 . [ 次へ ] をクリックします。

9 . アクセスポイントの電話番号を確認します。

アクセスポイントの電話番号はご使用のサービスによって異なることがあります。またアクセスポイントの通信形式によっても異なることがあります。プロバイダから取得した情報をもとに、アクセスポイントの通信方式を確認してください。

10 . ダイアログボックスにアクセスポイントの電話番号を入力します。

電話番号の欄に、利用する通信方式に対応した電話番号（例：0123-456-789）を入力し、電話番号の最後に通信方式を指定する ##mn を加えてください。

**注意**

電話番号入力時、以下のように入力してください。

フレックスチェンジモードの場合

0123456789##7

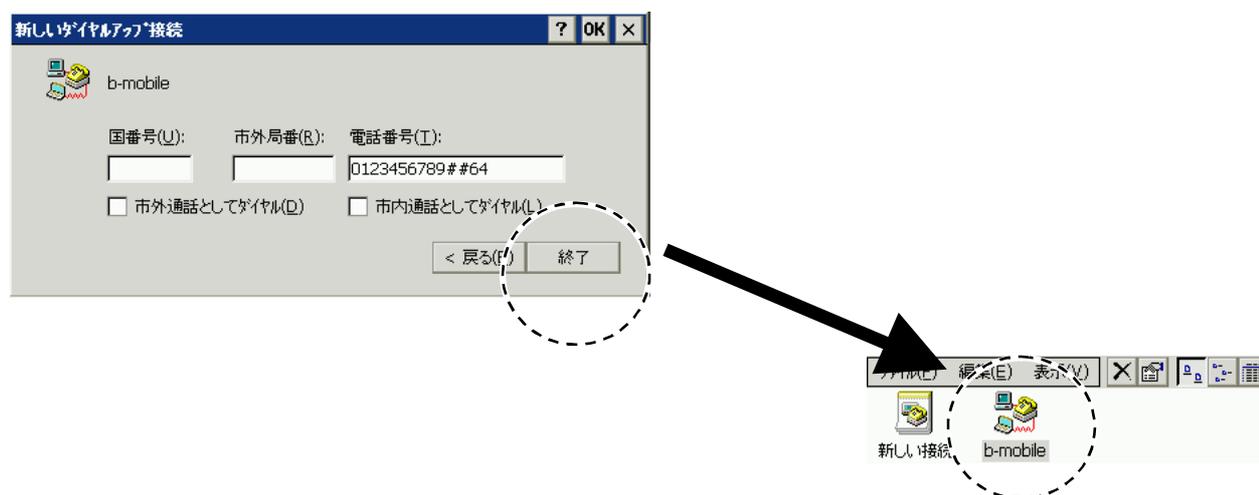
シングルリンクモード(32kパケット方式)の場合

:0123456789##61

マルチリンクモード(128kパケット方式)の場合

:0123456789##64

[市外通話としてダイヤル] チェックボックスにチェックし、[終了をクリックしてください]。リモートネットワークウィンドウ内に手順2で指定した名前のアイコンが作成されます。これで設定は完了です。



インターネットに実際に接続するためには、プロバイダから取得した以下の情報をお手元に用意してください。

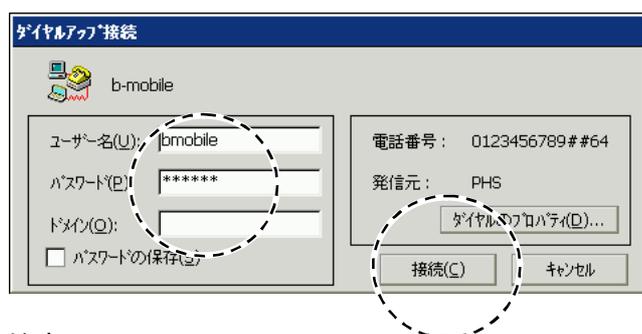
ユーザー名

パスワード

11. 作成された「リモートネットワーク」ウィンドウ内のアイコン(例では b-mobile)をダブルクリックします。



12. プロバイダから取得したユーザー名とパスワードを入力し、[接続]をクリックします。インターネットへの接続が開始されます。



**注意:**

画像のユーザー名は、bmobile となっていますが、入力する場合は、プロバイダから取得したユーザー名を

入力してください。

**注意：**

接続時の電話番号表示に、0 発信 (T0) がついている場合は、電話番号の設定が間違っています。この場合は、[ダイヤルのプロパティ]の[ダイヤルパターン]で設定を修正します。

正しい

T0123456789##64

間違い ×

T0、0123-567-89##64

ダイヤル パターン ? OK X

通話の種類ごとにダイヤル パターンを設定してください。

市内通話(L):  
G

市外通話(D):  
FG

国際通話(I):  
001,EFG

(E,e = 国番号; F,f = 市外局番; G,g = 電話番号)

13. 「手順の流れ」の「ブラウザやメールソフトのインストール」でインストールしたインターネットエクスプローラなどのブラウザのソフトを起動してください。

# Setup Macintosh MacOS X

1. Macintosh の電源を ON にし、MacOS X を起動します。

2. 本カードに付属されているセットアップ用 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入し、CCL フォルダに入っている「CCL ファイル」をルートディレクトリ内（ハードディスク直下） [ライブラリ] [Modem Scripts] にコピーしてください。



## 注意

Mac OS X 10.0 の場合は、CCL ファイルをルートディレクトリ内（ハードディスク直下） [Library] の中の [Modem Scripts] フォルダへコピーしてください。

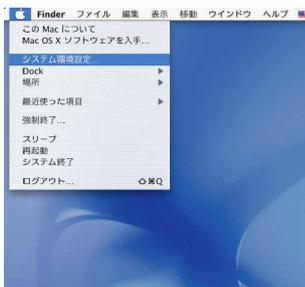
OS によってはあらかじめ CCL ファイルがインストールされている場合があります。この場合、CCL ファイルのコピー操作は必要ありません。

ファイルのコピーに当たって、パスワードが必要になることがあります。

3. Macintosh を再起動します。

4. お使いの Macintosh に本カードを挿入します。このときメニューバーにカードの挿入されたことを示すアイコンが表示されることがあります。（デスクトップには変化がありません。）

5. アップルメニューの [システム環境設定] を選択するか、あるいは Dock の [System Preferences] のアイコンをクリックして、[システム環境設定]アプリケーションを起動します。

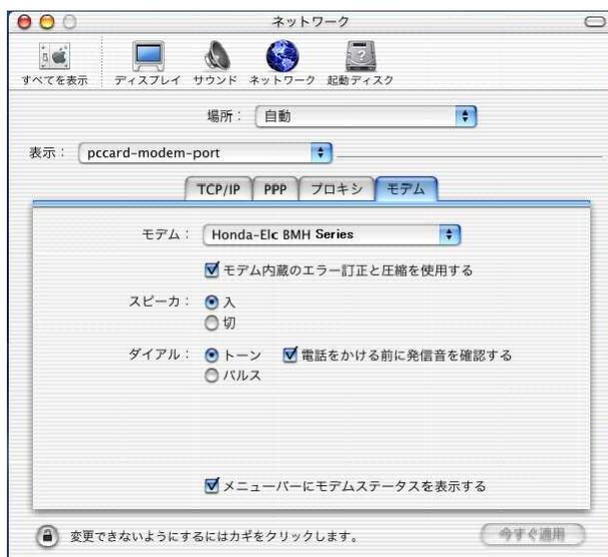


そして、[ ネットワーク ] のアイコンをクリックします。すると、「新しいポートが検出されました」というメッセージのかかれたシートが表示されますので、そこで OK ボタンをクリックします。現在の「場所」に、「PC カードモデム ( pccard-modem-port )」という接続先が加わります。これで、カードのセットアップは終了です。

6 . 続いて新しく認識された「PC カードモデム ( pccard-modem-port )」ポップアップメニューからそれを選択し、設定を行います。[ コントロールパネル ] から [ TCP/IP ] を選択し、TCP/IP 設定画面を表示させます。[ TCP/IP ] のタブでは、「設定」として「PPP を使用」を選択します。



7 . [ モデム ] のタブでは、ポップアップメニューから使用する PC カードモデムの機種「Honda -Elc BMH series」を選択します。表示されない場合、CCL ファイルのインストールが正しく行われていないことが考えられます。PC カードモデムに付属する CCL ファイルを /Library/ModemScripts にコピーしてから再度設定を行って下さい。設定を確認したら、[ PPP ] タブをクリックして、ダイヤルアップの設定を行います。



8 .[ PPP ]のタブでは、接続に利用する電話番号と、接続に利用するアカウントとパスワードの指定を行います。

電話番号（例：0123 456 789）を市外局番から入力し、電話番号の最後に通信方式を指定する##mnを加えてください。

#### 注意

電話番号入力時、以下のように入力してください。

フレックスチェンジモードの場合

0123456789# #7

シングルリンクモード（32k パケット方式）の場合

:0123456789# #61

マルチリンクモード（128k パケット方式）の場合

:0123456789# #64

電話番号入力後、[接続]をクリックするとプロバイダへの接続が開始されます。

インターネットに実際に接続するためには、プロバイダから取得した以下の情報をお手元に用意してください。

ユーザー名  
パスワード



「PPP オプション」ボタンをクリックして、表示されるシートで「PPP エコーパケットを送信」のチェックボックスのチェックをはずしておきます。

#### 注意

画像のユーザー名は、bmobile となっていますが、入力する場合は、プロバイダから取得したユーザー名を入力してください。

通常はこの状態では、手動で接続や切断を行うようになっています。Internet Connect アプリケーションで、接続や切断ができます。あるいは、システム環境設定の[ネットワーク]の[モデム]のタブにある[メニューバーにモデムステータスを表示する]にチェックを入れておけば、接続や切断をメニューバーから手軽に行えます。電話の受話器のメニューから「PC カードモデム (pccard modem port)」を選択して、その後に[接続]メニューを切断します。受話器のアイコンのアニメーションが終わってグレーの部分なくなると接続完了ですが、接続の確認のためにInternet Connect アプリケーションをメニューから選択して起動しておいてもいいでしょう。切断は、受話器のアイコンから[接続解除]を選択します。

9 .「手順の流れ」の「ブラウザやメールソフトのインストール」でインストールしたインターネットエクスプローラなどのブラウザのソフトを起動してください。

# Setup Macintosh MacOS

1. Macintosh の電源を ON にし、MacOS を起動します。

2. 本カードに付属されているセットアップ用 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入し、CCL フォルダに入っている「CCL ファイル」を [システムフォルダ] [拡張機能] の中の [Modem Scripts] フォルダへコピーします。



## 注意

OS によってはあらかじめ CCL ファイルがインストールされている場合があります。この場合、CCL ファイルのコピー操作は必要ありません。

3. Macintosh を再起動します。

これで準備は完了です。

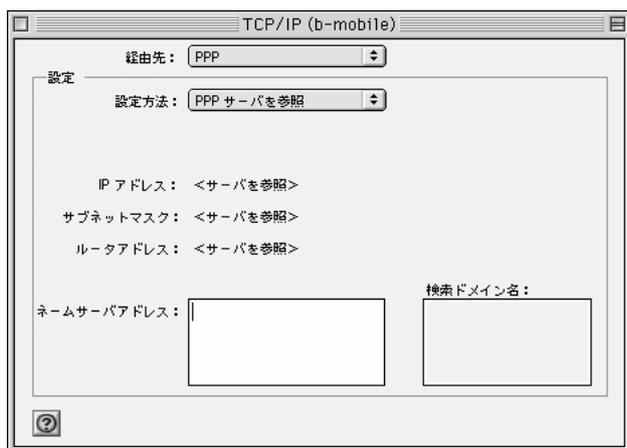
4. インターネット接続設定をする。

ネットワークに接続するためには、「Open Transport/PPP」や「Apple Remote Access クライアント」などのソフトを使います。ここでは、「Open Transport/PPP」を使っての設定方法を説明します。「Open Transport/PPP」がインストールされていない場合は、Macintosh の取扱説明書をご覧になってインストールしてください。

5. お使いの Macintosh に本カードを挿入した状態で、デスクトップ上にカードアイコンが表示されることを確認します。



6 .[ コントロールパネル ] から [ TCP/IP ] を選択し、TCP/IP 設定画面を表示させます。  
経由先を [ PPP ] に、設定方法を [ PPP サーバを参照 ] に設定します。



7 [ コントロールパネル ] から [ モデム ] を選択し、モデム設定画面を表示させます。経由先を「BMH Series」にします。[モデム]は契約したプロバイダのアクセスポイントがどういう通信方式をとっているかによって、それぞれ変わってきます。プロバイダから取得した情報をもとにアクセスポイントの通信方式を選択してください。

#### 注意

経由先は、場合によって[上(下)段 PC カードスロット]と表示されることがあります  
その場合は、カードを挿入しているスロットを指定してください。



8 .[ コントロールパネル ] から [ リモートアクセス ] を選択し、リモートアクセス設定画面を表示させ、プロバイダから取得したユーザ名とパスワードを入力します。

インターネットに実際に接続するためには、プロバイダから取得した以下の情報をお手元に用意してください。

ユーザー名

パスワード

プロバイダのアクセスポイントの電話番号

#### 注意

画像のユーザー名は、bmobile となっていますが、入力する場合は、プロバイダから取得したユーザー名を入力してください。

9. アクセスポイントの電話番号を入力します。

電話番号（例：0123-456-789）を市外局番から入力し、電話番号の最後に通信方式を指定する##mnを加えてください。

注意 電話番号入力時、以下のように入力してください。

フレックスチェンジモードの場合

0123456789##7

シングルリンクモード（32k パケット方式）の場合

0123456789##61

マルチリンクモード（128k パケット方式）の場合

0123456789##64

電話番号入力後、[接続]をクリックするとプロバイダへの接続が開始されます。



注意

画像のユーザー名は、bmobile となっていますが、入力する場合は、プロバイダから取得したユーザー名を入力してください。

10. 「手順の流れ」の「ブラウザやメールソフトのインストール」でインストールしたインターネットエクスプローラなどのブラウザのソフトを起動してください。

# Setup PDA

PDA はカードの認識方法がそれぞれ異なりますので、それぞれの PDA の取扱説明書をご覧になって、カードを認識させてください。カードの認識が正常に行えない (OS から) 場合には、カードの利用は行えません。また、認識は可能でもドライバ等、接続にソフトウェアが必用になる場合があります。

## 各種 PDA の場合

1. 通信ソフトを立ち上げて、以下の通信環境の設定を確認します。

- ・データフォーマットを通信先にあわせてください。  
不明な点はプロバイダにお問い合わせください。
- ・モデムの選択が必用な場合は、「標準 28800bps モデム」「ヘイズ AT 対応モデム」などを選択してください。
- ・通信速度は「115200」に設定してください。この速度がない場合は、機器の最高速度を選択してください。

通信ソフトによって設定方法が異なりますので、詳細などは通信ソフトや PDA の取扱説明書をご覧ください。

2. アクセスポイントの電話番号を確認します。

アクセスポイントの電話番号はご使用のサービスによって異なることがあります。またアクセスポイントの通信形式によっても異なることがあります。プロバイダから取得した情報をもとに、アクセスポイントの通信方式を確認してください。

3. ダイアログボックスにアクセスポイントの電話番号を入力します。

市外局番の欄は空欄にしておいてください。電話番号の欄に、利用する通信方式に対応した電話番号 (例: 0123-456-789) を市外局番から入力し、電話番号の最後に通信方式を指定する ##mn を加えてください。

### 注意

電話番号入力時、以下のように入力してください。

フレックスチェンジモードの場合	0123456789##7
シングルリンクモード (32k パケット方式) の場合	0123456789##61
マルチリンクモード (128k パケット方式) の場合	0123456789##64

これで設定は完了です。

インターネット接続については各種 PDA の場合、使用環境や OS によって設定方法が大きく異なりますので、お使いの PDA の取扱い説明書をご覧ください。

### 3 困ったときに

確認してください  
本カードが正しく認識しない場合の確認事項  
外付け CD-ROM を使用して手動セットアップを行う場合  
カスタマサポート



## 確認してください

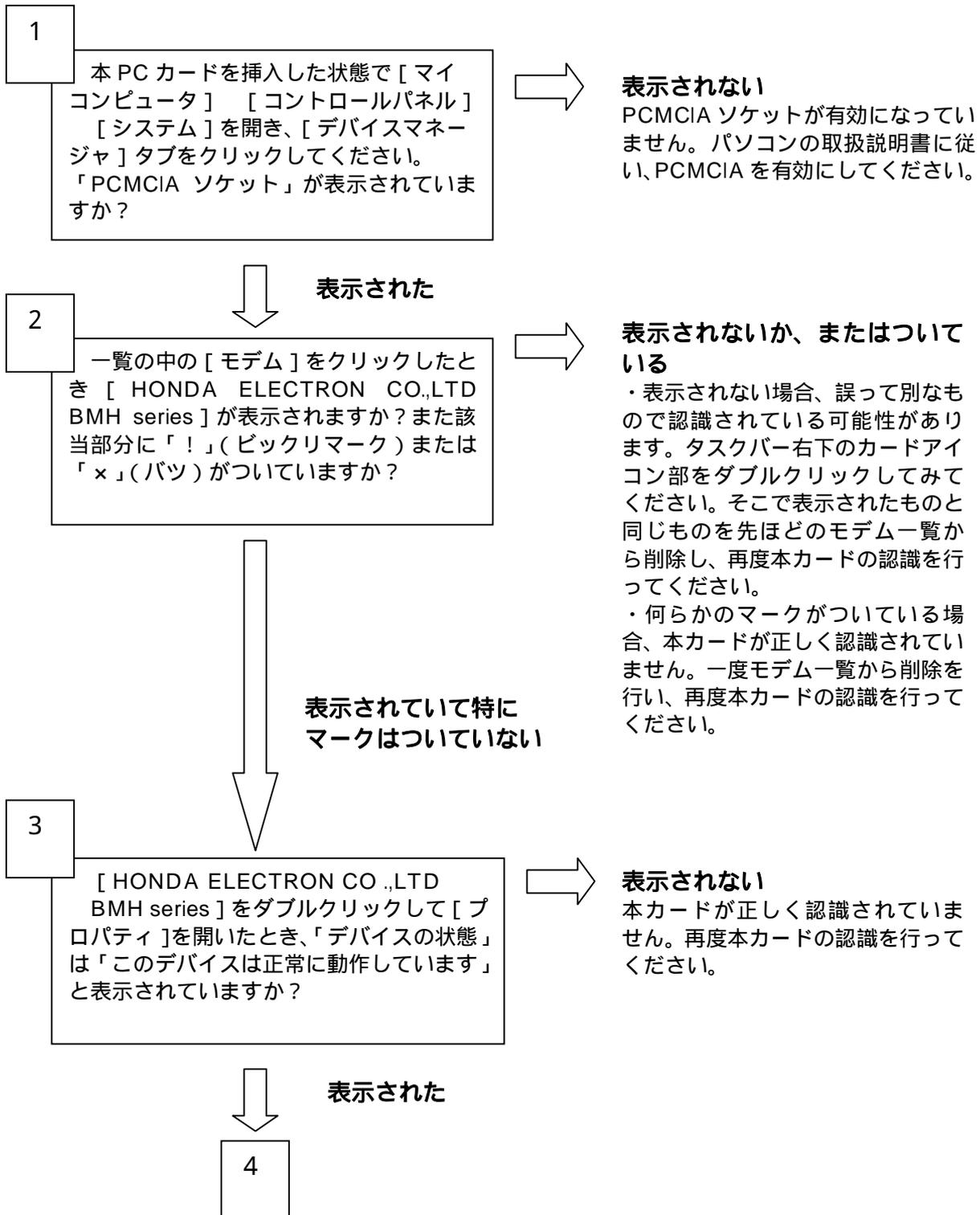
本カードが正常に動作しない場合は、まず以下の項目を確認してください。  
 確認しても動作しない場合は、お買い上げの販売窓口までお問い合わせください。

症 状	確認事項
本カードを差し込んでパソコンが全く反応しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本カードが正しく接続されていない可能性があります。カードをもう一度、奥までしっかりと差し込んでください。</li> <li>・PCMCIA カードのドライバが正常に機能していない可能性があります。PCMCIA カードのドライバが正しくセットされていることを確認の上、本カードを差し込んでください。</li> <li>・省エネタイプのパソコンでは本カードへの電源を OFF にしているものがあります。本カードのランプがどちらも消灯している場合にはカードへの電源が供給されていない可能性があるため、パソコンの取扱説明書に従い、電源の状態を確認してください。</li> <li>・本カードのランプの状態を確認してください。MODE 側が赤点灯のままの場合、パソコンや PDA の電源を OFF にし、再度電源を投入してください。</li> </ul>
誤って標準 PCMCIA カードモデムで認識させてしまった (Windows 98 / 98SE / Me / 2000 / XP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本カードを抜いた状態で「コントロールパネル」 「モデム」開いて「モデムのプロパティ」の中の[ 標準 PCMCIA カードモデム ]を選んで削除してから再度セットアップを行ってください。</li> </ul>
本カードをパソコンに認識させたのに通信ソフトから使えない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本カードがパソコンに正しく認識されているかどうか確認してください。さらに手順に従って各項目を確認してください。</li> </ul>
データ通信時、つながるとすぐきれてしまう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信条件の設定が通信相手と合っていない場合があります。通信方式の種類・電話番号・ユーザ名・パスワード・データ形式などを確認してください。設定の内容は利用されているプロバイダにご確認ください。</li> <li>・ダイヤルアップ接続の場合は、サーバーの設定・TCP/IP の設定も確認してください。</li> </ul>
通信できない (電話がかけられない) 電話をかけ始めるとすぐ切れてしまう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信方式の設定が正しく行われていない可能性があります。通信方式の設定をご確認ください。</li> <li>・自動再発信規制中の可能性があります。最初の発信から 3 分以内に行うことができる再発信は 2 回までです。しばらくしてから、再度発信してみてください。</li> <li>・お近くの基地局で使える回線がすべて他の人に使用されていると利用できない場合があります。しばらくしてから、再度発信してみてください。</li> </ul>

症状	確認事項
通信が安定しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電波の状態や回線の状態が悪いことがあります。本カードのアンテナマーク側ランプが安定して点灯していることを確認してください。</li> <li>・同ランプが点滅している場合は、電波の届きにくい場所である可能性がありますので、安定して点灯する場所に移動してください。</li> <li>・通信相手とデータ形式が合っていない場合があります。データ形式を確認してください。</li> <li>・アンテナが正しく接続されていない場合があります。アンテナの接続を確認してください。本カードをノートパソコンに接続したまま鞆などに入れ移動等を行うと、アンテナ部分に無理な力がかかり、故障の原因となります。</li> </ul>
通信速度が遅く感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信方式の設定が正しくない可能性があります。電話番号の入力方法をご確認ください。</li> <li>・電波の状態や回線の状態が悪いことがあります。</li> <li>・パソコンと本カードとの通信速度設定が低い場合があります。特に Windows でダイヤルアップ接続を利用している場合は、[ダイヤルアップネットワーク] の設定の中で本カードとの通信速度をご使用のパソコンの上限速度に設定してください。[コントロールパネル] からの通信速度の設定は無効になりますのでご注意ください。</li> <li>・Windows 98/98SE/Me の場合には IP パケットサイズを確認願います。「スタート」「設定」「コントロールパネル」「ネットワーク」「ネットワークの設定」タブにて「ダイヤルアップアダプタ」のプロパティを選択。詳細設定タブの部分で IP パケットサイズを確認、「自動」となっている場合、「大」に変更してください。</li> </ul>
通信ソフトがうまく動かない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中まで動作する場合、あるいは一部の機能は動作するが全体としてうまく動作しない場合、通信ソフトの設定が不適切な可能性があります。通信ソフトの設定内容を確認してください。</li> <li>・パソコンや PDA の電源をいったん OFF にし、本書に従って、再度本カードを接続してください。</li> <li>・パソコンや PDA の電池を確認してください。電池が少なくなると動作が不安定になることがあります。電池の残量が少ない場合は新しい電池に交換するか、パソコンや PDA に付属の AC アダプタを使って動かしてみてください。</li> </ul>
通信していないのに電力を消耗する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信ソフトを起動していると通信していなくても電力を消耗します。通信をしていない時はできるだけ通信ソフトを終了させるようにしてください。</li> </ul>

# 本カードが動作しない場合の確認事項

ここでは、Windows 98/98SE/Me/2000/XP の場合の確認事項を説明します。他の使用環境のものに関しては、弊社サポートデスクにお問い合わせください。



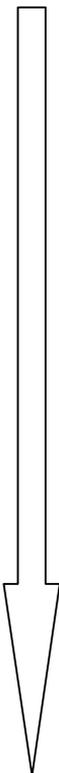
4

3の[プロパティ]内で[モデム]タブをクリックし、[ポート]のCOM番号が正しく割り当てられているか確認してください。



**正しく割り当てられていない。**

・他のポート（通信ポートや赤外線ポートなど）と競合し、使用できない状態になっている場合は、「スタート」「設定」「コントロールパネル」「システム」「デバイスマネージャ」から「モデム」を選択。弊社以外のモデムの部分を選択し、「プロパティ」をクリックして下さい。「全般」のところで「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」をクリック。（Windows2000の場合は「デバイスの状況」のところで「このデバイスを使わない(無効)」を選択）OK 選択後、表示されている画面を閉じて Windows を再起動して、再度本カードを認識させて下さい。



正しく割り当てられている

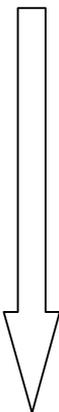
5

いったん「モデムのプロパティ」を閉じてください。次に、ターミナルソフトを起動し、入力フィールドに `ati4` と入力して Enter キーを押してください。



**文字が入力できない**

パソコンの設定によっては、文字が表示されないだけの場合があります。「atz」と入力して Enter キーを押し、再度「ati4」と入力してみてください。それでも入力できないときは、本カードが正しく認識されていない可能性があります。再度本 PC カードの認識を行ってください。



「BMH series OK」が返送された

**「BMH series OK」以外の文字列が返送された。**

モデムの選択で違うモデムを指定しています。「HONDA ELECTRON CO.,LTD BMH series」を選択してください。それでも同じ状態であれば、3,4 項再度確認後、一度すべてのモデム設定を削除し再度本カードの認識を行ってください。

6

atd アクセスポイントの電話番号  
##mn と入力してEnterキーを押してくだ  
さい。( ##mn の設定は通信方式ごとに異  
なります。



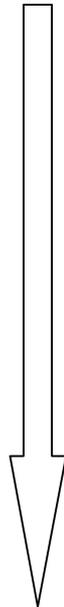
**「connect」以外の文字列が返送さ  
れた**

通信設定が間違っています。再度設  
定しなおしてください。

**NO CARRIER と表示された**

アクセスポイントの電話番号が正  
しいか、お客様ご自身の契約内容と  
あわせ確認してください。また「ア  
クセスポイントの通信方式」と「通  
信方式の設定」が正しいか確認し  
て、再度「atd アクセスポイントの  
電話番号##mn」を入力してみてく  
ださい。また、DDI ポケットのサー  
ビスエリア内にいるかアンテナ側  
LED の表示（をご覧になって確認  
してください。

アクセスポイントの混雑なども  
考えられますので、数回行ってみて  
ください。



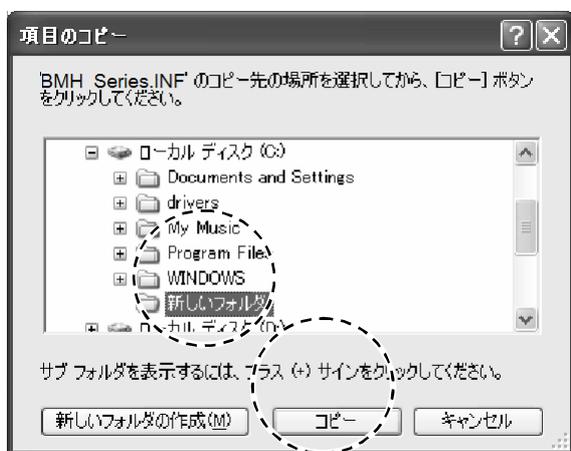
**「connect」が  
返送された**

カードの認識(セットアップ)に問題がなく、通信可能な状態です。メニューバーの[ファイル] [ハ  
イパーターミナルの終了]をクリックして切断し、ハイパーターミナルを終了してください。

## 外付け CD-ROM を使用して手動セットアップを行う場合

PC カードスロットがひとつしかなく、またその PC カードスロットを経由して外付け CD-ROM ドライブを使用するには以下の手順に沿ってセットアップを行ってください。

1. C ドライブ上にエクスプローラなどで新規フォルダを作成します。
2. 本カードに付属しているセットアップ用 CD-ROM 内の xxx.inf ファイルおよび xxx.cat ファイルを新規フォルダへコピーします。
3. CD-ROM ドライブを外し、PC カードスロットに本カードを挿入します。
4. 認識の手順の中で検索場所を先ほどのフォルダに指定し、認識手順を続けてください。



5. 認識手順完了後、手順 1 で作成したフォルダは削除してかまいません。

# カスタマーサポート

本カードに関する技術的なお問い合わせは、下記コールセンターまでご連絡ください。  
修理を依頼される場合は、当社ヘルプデスクまたは本カードお買い上げの販売窓口までご連絡ください。

## 日本通信株式会社

URL : <http://www.j-com.co.jp>  
E-Mail : [helpdesk@j-com.co.jp](mailto:helpdesk@j-com.co.jp)

技術的なお問い合わせについては、次の点をお知らせください。

- ・パソコン名（機種名・型番など）
- ・OSの種類およびバージョン
- ・インターネットブラウザの種類とバージョン、メールソフトの種類とバージョン
- ・データカードに登録されている電話番号/PSID
- ・ご利用のデータカードの種類

併せて、<http://www.bmobile.ne.jp> もご覧ください。

## 本多エレクトロン株式会社

URL : <http://www.honda-elc.com/bmh>

## 4 付録

コマンドリファレンス  
用語集



# コマンドリファレンス

データ通信を行うために、本カードをパソコン(またはPDA)から制御するためのコマンドについて説明します。なお、各コマンドの詳細については、本カードに付属されているセットアップ用CD-ROM内の「コマンドリファレンス」をご覧ください。

本カードを制御するコマンドは、米国 Hayes 社の「AT コマンド」と呼ばれるコマンドで、モデムの制御などに一般的に用いられているものです。通常は、通信ソフトが AT コマンドを発行するので、AT コマンドを意識する必要はありません。独自に本カードを制御したい場合は、AT コマンドを制御できる通信ソフト(ターミナルソフト)を用意してください。

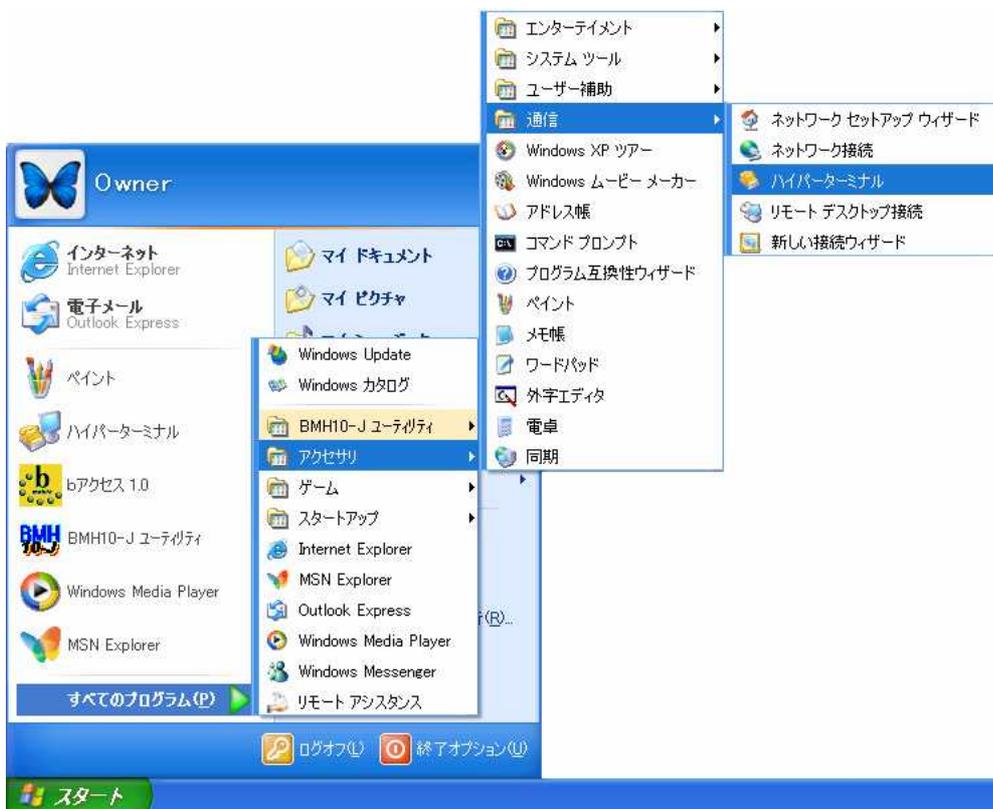
## AT コマンドの入力方法例

ここでは、通信ソフトとして Windows XP のハイパーターミナルを使って、AT コマンドを入力する方法を説明します。

1. [スタート] [プログラム] [アクセサリ] [ハイパーターミナル](Windows 98/98SE の場合は [スタート] [プログラム] [アクセサリ] [通信] [ハイパーターミナル]) の順に開いていきます。

「ハイパーターミナル」ウィンドウが開きます。

ハイパーターミナルがない場合は、[コントロールパネル] [アプリケーションの追加と削除] [Windows ファイル] [通信] [詳細] の順に開いていき、インストールしてください。



2. 「Hypertrm.exe」を起動します。

3. 「接続の設定」ウィンドウ内の [ 名前 ] に適当な名前を入力し、[ OK ] をクリックします。



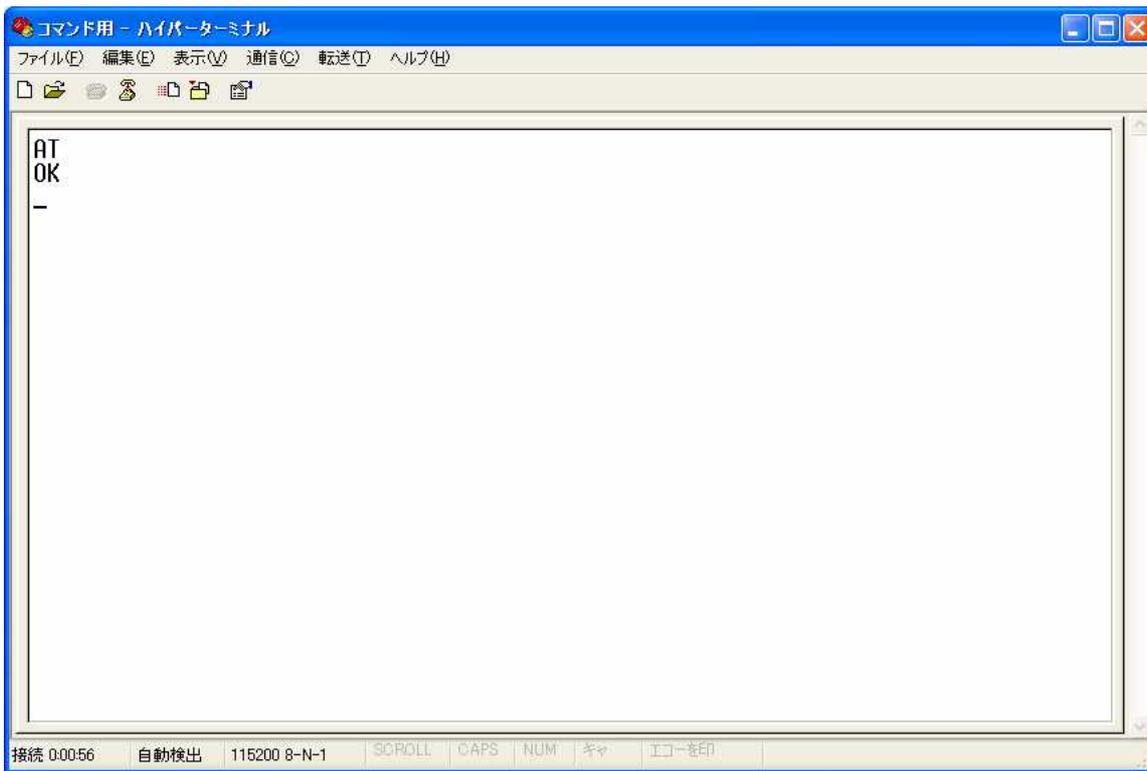
4 [ 電話番号 ] にアクセスポイントの電話番号を入力し [ 接続方法 ] に「HONDA ELECTRON CO.,LTD.BMH Series」を指定して [ OK ] をクリックしてください。



5. 「接続」ウィンドウで、[ キャンセル ] をクリックしてください。



6 AT と入力し Enter キーを押したとき、「OK」と表示されたら、準備は完了です。  
独自の設定に変更してください。



# AT コマンド

本カードでは複数の通信方式が利用できますが、通信方式によってはサポートできる AT コマンドが異なる場合があります。

AT コマンドは、アテンションコードである 'AT' と、引き続く文字によるコマンドから構成され、以下の書式となっています。

ATMmNn・・・Enter

AT： アテンションコード。AT コマンド列の開始を示します。

M、N： コマンド文字。AT コマンドの種類を示す文字（列）です。

m、n： コマンドパラメータ。コマンド文字で指示されたコマンドの内容を指定します。

Enter： キャリジリターン（エンター）キーの入力を示します。

なお、コマンドの入力は、大文字・小文字ともに可能です。

以下に代表的なコマンド例を示します。

コマンド	内 容	初期値
A/	コマンドリピート	-
A	応答	-
D	オリジネートモードへの移行	-
En	コマンドエコー	1
Hn	フック制御	-
In	アイデンティフィケーション	-
On	オンラインデータモードへの復帰	-
Qn	リザルトコード設定	0
Sr?	S レジスタの内容表示	-
Sr=n	S レジスタ値の設定	-
Vn	リザルト形式	1
Xn	リザルトコードの範囲指定	4
W	本カード設定プロファイルの読み出し	-
Z	ソフトリセット	-
Vn	拡張リザルトコードの選択 1	1
Xn	拡張リザルトコードの選択 2	0
&Cn	DCD（キャリア検出）制御	1
&Dn	DTR 制御	2
&F	デフォルト（工場出荷時の設定）の呼出	-
&Kn	フロー制御	3
&Sn	DSR 信号制御	0
&V	現在のコンフィグレーションの表示	-
&W	CF カード設定プロファイルへの書き込み	-
&Z	CF カード設定プロファイルへの初期化	-
+++	エスケープシーケンスコマンド	-

## S レジスタ

S レジスタは、通信用 CF カードとしての動作を詳細に制御するための数値を保持しておくものです。一般的に、本カードの使用は、デフォルト（工場出荷時の設定）の状態です。S レジスタの内容を変更する場合には、付属の CD-ROM 内に入っている「コマンドリファレンス」をご覧ください。以下に代表的な例を示します。コマンド一覧など詳細については本カードに付属している AT コマンドリファレンスをご覧ください。

コマンド	内 容	初期値
S0	自動着信回数の設定	0
S7	キャリア検出許容時間	50
S30	無通信監視タイマ（不活動切断タイマ）	0
S86	網切断理由（読取専用）	-

## 拡張 AT コマンド

本カードでは、固有の動作・機能をサポートするために「拡張 AT コマンド」（標準的な AT コマンドではない、当社独自に規定した本カード専用の AT コマンド）を設定してあります。一般的なデータ通信で使用する場合は、デフォルトの状態をご利用になれます。通信方式の選択など、固有の機能をご利用になる場合にご利用ください。以下に代表的な例を示します。

コマンド	内 容	初期値
#An	発信者番号通知機能の選択	1
#Bn	発信者番号表示の選択	-
#Cn	着信時の通話サービス表示の選択	0
@Bn	分計サービスの設定	0
@Dn	着サブアドレス有 / 無設定機能の選択	1
@Fn	リダイヤル情報詳細表示機能の選択	0
@Omn	通話サービスの変更	-
@Pn	64k サービス通信の GR/BE	1

## リザルトコード

本カードでは AT コマンドを受け付けた場合、そのコマンドに対応した動作を行い、その結果をリザルトコードとしてパソコン（または PDA）へ返します。  
なお、サポートしていないコマンドを受けた場合には「ERROR」を返します。通信ソフトによっては、「ERROR」を受けると動作を停止するものがありますのでご注意ください。

数字	リザルト文字	内 容
0	OK	AT コマンドが正しく実行された
1	CONNECT	相手と通信状態になった データ通信モードへ復帰した
2	RING	着信あり
3	NO CARRIER	回線が切断された
4	ERROR	コマンドフォーマットエラー コマンド状態エラー
7	BUSY	相手が話し中
29	DELAYED	しばらくしてからかけ直し

# 用語集

## [AT コマンド]

米国 Hayes 社の「AT コマンド」と呼ばれるコマンドで、モデムの制御などに一般的に用いられているものです。AT コマンドは、アテンションコードである'AT'と、引き続く文字によるコマンドから構成されます。

## [アクセスポイント]

プロバイダが用意しているインターネットへの入口です。インターネットを利用するには、アクセスポイントに電話をかけて接続します。使用するモデムの通信速度によって利用できるアクセスポイントは異なります。アクセスする場合は、通信方式にあったアクセスポイントを選ぶか、アクセスポイントにあった通信方式を設定してください。

## [bps]

Bit Per Second の略です。情報をやりとりするスピードの単位で、1 秒間に送信できるビット数を表します。

## [オンラインコマンドモード]

通信相手との接続状態を保持したまま、一時的に移ったコマンドモードの状態です。エスケープコマンドによりこの状態に移行します。

## [CCL ファイル]

Macintosh マシンで周辺デバイスの詳細を定義するファイルで、Open Transport/PPP や Apple Remote Access クライアントなどの通信ソフトで本カードを利用するのに必要なモデム設定ファイルです。

## [オンラインモード]

CF カードが通信相手と接続されている状態です。この状態では、CF カードはパソコン(または PDA)と通信相手とのデータの受け渡しを行っています。

## [DTE 速度]

パソコンからモデムまでの通信速度のことをいいます。

## [回線速度]

モデム間の通信速度のことをいいます。

## [ISP]

Internet Service Provider の略称でプロバイダと同じです。

## [拡張 AT コマンド]

本カードでは、PHS 固有の動作・機能をサポートするために「拡張 AT コマンド」(標準的な AT コマンドではない、当社独自に規定した本カード専用の AT コマンド)を設定してあります。

## [PC Card Standard]

PC カードの規格です。

## [コマンドモード]

本カードがパソコン(または PDA)との間でコマンドを受け取ったり、リザルトコードを送ったりしている状態です。本カードに動作環境を設定する時がこの状態です。

#### [PDA]

Personal Digital Assistants の略で、携帯情報端末のことです。

#### [S レジスタ]

S レジスタは、通信用 PC カードとしての動作を詳細に制御するための数値を保持しておくものです。

#### [設定プロファイル]

本カードでは、AT コマンドや S レジスタで設定した情報を、不揮発性メモリーにより電源を OFF にしても保持することができます。この保存された情報を「設定プロファイル」と呼びます。電源 ON 時にはプロファイルの設定で起動します。本カードを利用するにあたり、フロー制御は必要なものとお考えください。

フロー制御には RTS/CTS 信号線を使用するハードウェアフロー制御と、XON/XOFF キャラクタを使用するソフトウェアフロー制御の 2 種類があります。XON/XOFF フロー制御では 2 種類の 1 バイト文字を使用してフローコントロールをします。バイナリファイルの転送などには不向きです。使用するフロー制御の方式は、プロバイダなどで指定していますので、それに従ってください。

#### [セットアップファイル]

Windows OS 上において各種モデムを動作させるために詳細設定が必要となります。セットアップファイルとはその設定が記述されているもので単に定義ファイル、または inf ファイルとも呼ばれます。

#### [プロバイダ]

インターネット接続のサービスを代行している業者のことをいいます。プロバイダは専用のサーバーをもっており、ユーザーはそこへアクセスすれば簡単にインターネットが始められます。個人でインターネットを利用する場合には、プロバイダに加入し、認証のためのユーザ名とパスワードを発行してもらいます。

#### [データ圧縮]

データを圧縮して送信することで、同じ通信速度で多くのデータを送ることができます。本カードではサポートしておりません。

#### [プラグ&プレイ]

周辺機器をパソコン本体に接続する際、ケーブルなどを接続して電源を入れると、半自動的にドライバのインストールなどを行って使える状態にしてくれる機能のことです。

#### [リザルトコード]

本カードでは AT コマンドを受け付けた場合、そのコマンドに対応した動作を行い、その結果をリザルトコードとしてパソコン（または PDA）へ返します。

#### [フレックスチェンジ方式]

DDI ポケットがサービスを行っている通信方式です。データ流量の状態により 32k パケット方式と 64kPIAFS（ベストエフォート）方式を高速で切り替えます。フレックスチェンジに対応したアクセスポイントを経由することで最高 64kbps でのデータ通信ができます。

#### [フロー制御]

データ通信を行う際に、送信側と受信側の処理速度の違いから、データが溢れてしまうことを防ぐために行われる制御のことです。パソコンと CF カード、CF カードと通信相手のモデムの間などでフロー制御が生じます。

#### [32k パケット方式]

パケット通信方式の一種です。情報をパケット（小包）に分割して、パケット単位で情報をやりとりする方式です。下り最大 32kbps、上り最大 17kbps でインターネットへの接続が可能です。

#### [32kPIAFS 方式]

PHS データ通信標準規格の通信方式です。同じ方式に対応した他のデータ通信カードや ISDN 回線に接続された PIAFS 対応のターミナルアダプタ (TAP) などに接続することにより 32kbps のデータ通信ができます。

#### [64kPIAFS 方式 (ベストエフォート方式)]

通信方式の一種です。基地局の利用状況により通信速度を 32k - 64kbps の間でフレキシブルに選択、通信がつながりやすく、切断されにくい環境を実現するものです。

ISDN 回線に接続されたベストエフォート方式のターミナルアダプタ (TAPB) などに接続することで最高 64kbps の高速データ通信が可能です。

#### [128k パケット方式]

パケット通信方式の一種です。情報をパケット (小包) に分割してパケット単位で情報をやりとりする方式です。複数の基地局を同時に利用することで下り最大 128kbps、上り最大 68kbps でインターネットへ接続が可能です。

# 5 仕様

通信カード仕様



## 通信カード仕様

製品名	BMH11C-J	
対応 OS	Windows 日本語版 98 / 98SE / Me / 2000 / XP / CE3.0 以上 Mac OS 8.5 / 8.5.1 / 8.6 / 9.0 / 9.0.4 / 9.1 / 9.2.1 / 9.2.2 / 10.1.5 / 10.2 / 10.2.1 / 10.2.2 / 10.2.3 / 10.2.4 / 10.2.5	
形状	本体：Compact Flash Type 準拠 PC カードアダプタ装着時：PC カード Type 準拠	
外形寸法	53.0mm × 42.8mm × 4.1mm (アンテナ部は 7.5mm)	
重量	16g 以下	
使用電源	DC5V/3.3V 共用 (ホスト側より供給) 動作保証範囲：DC5V ± 10%、DC3.3V ± 5%	
平均消費電流	各種通信	128k パケット方式 175mA 以下 64kPIAFS (ベストフォート) 方式 / フルックスレンジ方式 120mA 以下 32k パケット方式 / 32kPIAFS 方式 85mA 以下
	待ち受け	約 1mA (LED 消灯時) 9mA 以下 (LED 点灯時)
環境条件	動作温度範囲：0 ~ 50 動作湿度範囲：20 ~ 85%RH (結露なきこと)	
制御コマンド	ヘイズ AT コマンド準拠	
通信方式	128k パケット方式 / 64kPIAFS (ベストフォート) 方式 フルックスレンジ方式 / 32k パケット方式 / 32kPIAFS 方式	
技術基準適合番号	A03-0311JP J03-0045	